２０１９年１２月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、２０日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、新潟放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、金よう夜きらっと新潟「近すぎたアイドル　～岐路に立つＮＧＴ４８～」についてから説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　原　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　員　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
尾形　玲子（養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）

（主な発言）

＜金よう夜きらっと新潟「近すぎたアイドル　～岐路に立つＮＧＴ４８～」
（総合　５月３１日(金)放送）＜新潟県域＞について＞

○　新潟県内では、ＮＧＴ４８を知らない人はいないといっても過言ではないほど有名なのだろう。自治体がいかにＮＧＴ４８に頼りながら地域の魅力を発信していたかが分かった。ＮＧＴ４８の運営体制の見直しといった課題もあるが、アイドルとファンの距離の近さも問題の一つなのではないか。行き過ぎたアイドルビジネスの危うさとその宣伝効果について、どのようにバランスを取りながら提携していくべきなのかを考えさせられた。ＮＧＴ４８の人気に頼っていた面もあると思うので、自治体や企業は、問題が起きたから起用をやめると簡単に言える立場ではないだろ

うと感じた。アイドルグループを使って地域の魅力を発信したいと思っていた県もあるだろう。今後この問題を取り上げるのならば、地方から何を発信するべきかという本質的な課題に触れるとよいのではないか。

○　アイドルビジネスの危うさに警鐘を鳴らす番組だった。今回の問題により、自治体や企業がイメージダウンを被ったかのように受け止められているが、果たしてそうなのだろうか。未成年者も在籍するアイドルグループを使ってＰＲを行ってきた自治体や企業の側にも問題はなかったのかという点にも言及してほしかった。スタジオのアナウンサーの進行と取材した記者の解説は、トラブルが起きた背景や新潟経済への影響を視聴者に丁寧に伝えており、分かりやすかった。第三者委員会の資料をベースにしていたが、もう少し深掘りできると、さらによかった。番組では、ブランド総合研究所が実施している「地域ブランド調査」に基づいて、都道府県のブランド力を評価した「都道府県の魅力度ランキング」を使用してイメージアップの効果を伝えていたが、効果を測る指標として適切だったのか疑問に思った。また、番組タイトルのテロップデザインは「近すぎたアイドル」の「イ」が「ク」に見えてしまい、読みづらかった。番組の最後で、夢を持つ少女たちが健全に前を向いていけるよう運営会社にも改善を求めたいと言及しており、アイドルビジネスへの警鐘として有意義な番組だった。

○　５月に放送した番組を１２月の審議会で取り上げるのは遅すぎるのではないか。今回のように時事問題を扱った番組は、できるだけ放送から間をあけずに議題にあげたほうがよい。地域の人たちが自分たちのご当地アイドルに親しみを持っているかが分かる内容だったが、第三者委員会でどのような結論が出されたのかをもう少し丁寧に紹介し、運営会社にも踏み込んだ取材をしてもよかったのではないか。今回の件で、ＮＧＴ４８を起用しなくなったことにより、違約金の発生などがあったのかどうかなどについても触れてほしかった。今回のケースはアイドルビジネス全体の問題が、ＮＧＴ４８で噴出したということだと思う。番組タイトルでもアイドルビジネスの問題点に切り込むことを前面に出したほうが、より社会構造全体の問題だということが伝わったのではないか。なぜ生放送だったのかが気になったが、番組全体としては、短時間で分かりやすくまとまっており、大変すばらしかった。人の能力や魅力そのものをビジネスにする時の問題点に触れた番組だった。今回の番組は、地域経済と絡めた視点が非常によかった。継続して取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

放送直前まで関係者に出演交渉をしており、臨機応変に対応できるよう生放送にした。

○　地域を盛り上げるために、タレントやアイドルを起用することはあるが、アイドルを応援するファンの発言にはやや熱狂的にすぎて共感できない面もあった。アイドルビジネスはファン心理を巧みに利用しており、子どもたちの純粋な夢を大人が利用しているようにも感じる。番組の中で、運営側やアイドルの家族の話も聞けるとよかった。今後取材を続けるのであれば、ぜひアイドルビジネスを手がける人たちの声も取り上げてほしい。

○　簡単には解決できない多くの問題を抱えていると思う。胸が痛むのはアイドルが商品化されていることだ。アイドルの人気が出て、売り上げが伸びるのであれば誰も損をしていないように見えるが、人気という実態のないものにお金が動いているだけにも思える。また、同じグループの中でメンバー同士を競わせるのも気持ちが穏やかではないだろう。町おこしとしてのＰＲ効果があったとしても、本当の価値といえるのか疑問に思う。私たちはきちんとその価値が分かって判断しているのだろうかと考えさせられた。

○　ブームを作ることは大事だと思うが、運営側は最後まで責任を持っているのか疑問に思った。限られた放送時間の中に丁寧に取材された内容が盛り込まれていたと思う。アイドルに夢中になる人がいる社会に警鐘を鳴らす番組になっていた。自治体も人気のあるアイドルグループに依存しすぎていた面もあったのだろう。何かに依存して地域の魅力を発信していくのではなく、自助努力をしていくべきだと思う。今後この問題を取り上げる際には、アイドルグループを運営する側の体制に問題はなかったのかを深掘りしてほしい。

○　ファンの姿をよく取材した番組だった。ＮＧＴ４８だけでなく、他の同じようなグループと比較検証してもよかったのではないか。問題点はよく挙げられていたが、新しい情報が少なかったように思う。自治体がアイドルを起用して地域のＰＲを行うことの意義が伝わるように、どのように発信を行っていたかを、もっと具体的に説明してもよかったのではないか。

○　事件から間もない時に放送しており、機を捉えた内容だった。１０代、２０代の若者にとって、ＮＧＴ４８が所属するグループは非常に影響力がある。アイドルグループを管理している運営側への取材も試みていたが、なぜ問題が起きたのかはっきりとした回答がなかったのは残念だった。アイドルグループを起用して地域の魅力を発信している自治体は多いと思うので、問題の本質に踏み込んで取材し、全国放送で取り上げてもよいテーマだと思う。番組タイトルは、多くの視聴者をひきつ

けたと思うが、もう少し問題の本質が伝わるような表現にしてもよかったのではないか。

○　半年以上前の番組をなぜ今回取り上げたのか疑問に思った。番組を通じて、アイドルビジネスの実態や熱狂的なファンの存在を知ることができた。多方面に取材し、一連の出来事を視聴者に分かりやすく伝えていた点は評価したいが、運営会社にもう少し踏み込んで取材してほしかった。番組進行役のアナウンサーと取材した記者は、落ち着いていて話の内容も聞き取りやすく大変よかった。番組全体を通じて、アイドルビジネスの負の側面を伝えることができていたように思う。

（ＮＨＫ側）

今回の問題は、新潟県にとって非常に影響力が大きく、今後どのように地域の魅力を発信していくかまだ決まっていない面もある。今回取り上げられなかった内容も含め、今後も問題を伝えていきたい。

（ＮＨＫ側）

審議会で取り上げる番組については、放送した時期も含めて適切な番組を選んでいきたい。

＜放送番組一般について＞

○　１１月２４日(日)のＮＨＫスペシャル　シリーズ　食の起源　第１集「ご飯～健康長寿の敵か？味方か？～」と１２月１５日(日)の第２集「『塩』～人類をとりこにする“本当の理由”～」を見た。出演者のＴＯＫＩＯにひかれて見る人も多いのではないか。アニメーションを効果的に使いながら構成しており、見応えのある番組だった。食をもっと大切にしなければいけないという番組のメッセージを感じた。特に第１集は、低糖質ダイエットが流行し若者を中心に食生活が偏っていることを危惧するとともに、ご飯を食べることが健康を維持するためにいかに重要かを示したすばらしい内容だった。消化酵素に関する実験も興味深く見た。

○　１２月１日(日)から８日(日)のＮＨＫスペシャル「シリーズ　体感　首都直下地震」を見た。１２月５日(木)の「ＤＡＹ４　危機を生きぬくために」は、現場の緊迫感が伝わる内容で、特に小芝風花さん演じるアナウンサー倉石美香が「自分が無知なせいで命を救えなかった」と言ったところが印象的だった。地震が起きた時に

実際に起こる事態を具体的に表現しており、番組を見た視聴者の防災意識も高まったと思う。ただ、番組数が多く、放送期間も長かったため、リアルタイムで視聴できた人は少なかったのではないか。今回のように公共性の高い番組は、ＮＨＫオンデマンドなども活用しながら、より多くの人に番組を見てもらう工夫が必要だと思った。

（ＮＨＫ側）

多くの視聴者に届けたいという思いからさまざまな取り組みを行った。ＮＨＫオンデマンドでも、一定期間無料配信を行ったので、さらに多くの人に見てもらえたのではないかと考えている。

○　１２月５日(木)のＮＨＫスペシャル　シリーズ　体感　首都直下地震「ＤＡＹ４　危機を生きぬくために」を見た。まさに「ＮＨＫスペシャル」の名にふさわしい番組だった。報道現場の混乱した様子やＬ字画面によるさまざまな地震に関する情報により、実際に今起きているのでないかと思うほどリアルな番組だったのではないか。リアル過ぎるがゆえに番組を見て恐怖を覚えた視聴者もいたのではないかと思う。公共放送ＮＨＫとして、人々に災害対策への警鐘を鳴らし続けることが重要だ。万が一渋谷の放送センターが使えなくなったとき、大阪放送局とさいたま放送局でバックアップするという話を聞いた。最近、関東北部で地震が頻発しているので、同じ地域にある放送局でバックアップ機能を果たせるのか疑問に思った。

（ＮＨＫ側）

さいたま放送局は放送センターが使えなくなったとき、ラジオ放送を担うことを想定している。なお、関東北部を中心とした地震が起こった際には、放送センターの機能を継続できているものと考えている。

（ＮＨＫ側）

これまでも、さまざまな番組で首都直下地震について伝えてきたが、どうしても自分のこととして伝わっていないのではないかという思いがあった。今回、よりリアリティーを持って伝えるために、ドラマという演出を用いた。一方で、視聴者が実際に起こっている災害だと勘違いしないように、ドラマ部分はレターサイズで、普通のニュースとは違う画角で放送した。

○　１１月２５日(月)のストーリーズ　ノーナレ「“ワケあり”りんご」を見た。果物でも人間でも、見た目ではなく中身が大事だということが伝わる番組だった。それぞれ事情を抱えた他人同士が肩を寄せ合う姿に、家族とは何かを考えさせられた。説明的ではなく、映像と編集で効果的に表現していた。「ノーナレ」は毎週放送される番組ではないが、とてもよい番組だと思う。どのような制作体制で行っているのか。

（ＮＨＫ側）

「ノーナレ」は放送センターだけでなく、地域放送局も含め、いろいろなセクションが制作している番組だ。ＮＨＫのドキュメンタリーは説明が多く、頭では理解できるが心に響かないといった意見もあり、「ノーナレ」はナレーションに頼らない演出で制作している。また、ご覧いただいた回は福祉番組や宗教番組を制作しているディレクターが制作した。

○　１１月２９日(金)の「ニュースウオッチ９」で「小さな村の名物ピアノ物語」のリポートを見た。最近、市民の文化交流のために市が運営する施設に楽器を入れる自治体もある。機会があれば、そのような地域の取り組みも取材してほしい。

○　「日曜討論」は旬のテーマを扱っていて、非常によいと思う。１２月１５日(日)の日曜討論「吉野さん　ノーベル賞受賞　どうするニッポンの科学技術」を見た。過去のノーベル賞受賞者や学術研究を支援する人たちなど、さまざまな人がバランスよく出演していた。吉野彰さんのリチウムイオン電池開発の功績や科学技術研究の意義、人々の科学への理解をどのように広げていけばよいのかというテーマで討論していて、充実した内容だった。「日曜討論」は生放送でありながらも毎回よくまとまっている。司会者の後ろのモニターに映し出される資料と映像の関係がうまくいっていない回もあるが、今回はバランスよく映し出されていて、構成も分かりやすかった。価値ある番組の一つだと改めて感じた。

（ＮＨＫ側）

生放送のため、出演者の発言に合わせた映像をモニターに映し出せていない時もある。できるだけ発言内容に合わせた資料や映像を使うことで、視聴者により意図が伝わるよう工夫したい。

○　１２月１５日(日)大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」の最終回「時間よ止まれ」を見た。今回の大河ドラマの内容は、これまでとは違う視聴者層に届いていたのではないか。視聴率の低迷を伝える報道もあるが、周囲では評判がよかった。

（ＮＨＫ側）　今回の大河ドラマは、今まで取り上げてこなかった時代を舞台にし、落語を隠れたテーマにするなどさまざまなチャレンジを行った。若い世代には比較的よく見られたが、これまで大河ドラマを見ていただいてきた視聴者層にはなじまなかった面もある。成功した点や課題を検証し、今後の番組制作に生かしていきたい。

○　茨城県日立市で開催された「ＮＨＫのど自慢」の生放送を観覧した。生放送の現場に初めて参加したが、事前の盛り上げ方や本番が始まるまでのスタッフの動き方などが本当にプロの技で大変感心した。地域を盛り上げるという公共放送の役割を果たす看板番組だと思う。全国からの生放送を継続して行っていることに感激した。

○　１１月１０日(日)の日曜美術館「幻の国宝　佐竹本三十六歌仙絵」を見た。佐竹本三十六歌仙絵が「絵巻切断」によってちりぢりになった経緯が説明されていた。もし切断されていなかったらどうなっていたかという説明もあれば、より理解が深まったと思う。

○　１２月２日(月)の「レイチェルの旅ときどきキッチンｉｎ山梨」(Ｅテレ 後10:50～11:20)を見た。明るいレイチェル・クーさんのキャラクターが山梨の魅力を引き立てながら、山梨の風土もきちんと伝えていたので好感が持てた。地元の方がたくさんの料理を作り、最近話題のワイナリーも紹介されていて、構成が工夫されていた。山梨の食というと、ほうとうやワインを取り上げがちだが、世界の料理に詳しいレイチェルさんがどのような発想で今回の料理作るに至ったかをもう少し知りたかった。

○　１２月７日(土)のＥＴＶ特集・選「武器ではなく　命の水を～医師・中村哲とアフガニスタン～」を見た。長期間に渡って取材を積み重ねており、これほどの内容を映像におさめていたことに感心した。ＮＨＫの取材力とアーカイブスの力を感じた。ＮＨＫには貴重な映像が多く残っているので、視聴者がふだんから気軽にアーカイブスにアクセスできるとよいのではないかと思う。

（ＮＨＫ側）

中村哲さんを最初に取材したのは 1998 年で、今回放送した番組は 2015 年１０月までの取材を経て、2016 年に放送したものだ。今回の事件を受けて、追悼番組として再放送した。

○　１２月７日(土)のＥＴＶ特集・選「武器ではなく　命の水を～医師・中村哲とアフガニスタン～」を見た。すばらしい映像が残っていたと思った。今年は緒方貞子さんも亡くなっており、彼女の活動を取り上げた番組も再放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

１２月１１日(水)にクローズアップ現代＋「緒方貞子　今を生きるあなたへ」を放送した。１月には緒方さんを取り上げた「ＥＴＶ特集」を放送する予定である。

○　１２月７日(土)のＥＴＶ特集・選「武器ではなく　命の水を」を見た。2016 年に放送された時も見たが、今回の事件を受けて、迅速に再放送したことは意義のあることだ。功績を残した人々の活動が、映像で残り、伝え続けられることは重要だと感じている。

○　１２月７日(土)のＥＴＶ特集・選「武器ではなく　命の水を」を見た。中村哲さんが亡くなってすぐの放送だったので、なぜこんなにも早く放送することができたのかと驚いた。

（ＮＨＫ側）

過去の番組を再放送する際には、映像の権利処理が必要になる。今回はそういった確認をスムーズに行うことができ、迅速に放送することができた。

○　新聞のテレビ欄で「ちばてつや」という名前に惹かれ、「アニ×パラ　あなたのヒーローは誰ですか」を見た。番組を見るまでは、パラスポーツは健常者のスポーツを障害者が行うものだと思っていたが、全く別のジャンルのスポーツだということが分かった。分かりやすいアニメーションで、迫力のある映像と音楽で構成されておりすばらしかった。「アニ×パラ」には、ほかのパラスポーツをテーマにしたものもあり、パラリンピックを盛り上げるための一助となっていると感じた。

○　「２０１９ＮＨＫ杯フィギュア」を見た。１１月２３日(土)は「女子シングル　フ

リー」(ＢＳ1　後 4:40～6:05、総合後 6:05～6:45)と「男子シングル　フリー」(総合 後 7:30～9:45)などがあり、総合テレビとＢＳ１を交互に見た。長時間にわたる試合を２つのメディアを使ってうまく編成していた。どのように放送時間を調整しているのか興味がわいた。

○　１２月１４日(土)の趣味どきっ！プレミアム　大使夫人のおもてなしスペシャル「あこがれのインテリア編」(ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 6:30～7:29)を見た。日本にある大使館の大使夫人を訪ね、テーブルセッティングやその国の料理、文化的なことなどを紹介する興味深い番組だ。今後も放送を楽しみにしている。

○　１２月１６日(月)のプレミアムシアター　ドキュメンタリー「きよしこの夜」(ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 前 3:37～4:30)を見た。この歌が人種や国境、宗教を越えて 200 年間どのように歌い継がれてきたのかを理解できる番組だった。ＮＨＫが制作した番組ではなく海外のドキュメンタリー番組であったが、このような秀作を放送していることもしっかりとＰＲするとよいと思う。

○　ＢＳ時代劇「赤ひげ２」を見た。前作の「赤ひげ」から継続して見ている。俳優、演出、音楽がすばらしく、前作に続き、良作だ。今後も良質な時代劇を制作し続けてほしい。

○　１２月１９日(木)の偉人たちの健康診断「ベートーベン　第九誕生！難聴との闘い」を見た。単にベートーベンの耳の病気について語るのではなく、それが創作にどのような影響を及ぼしたのかという点でも分かりやすく解説していた。最新の研究結果によると大変な難病であったことが分かり、驚いた。「偉人たちの健康診断」は健康診断という斬新な切り口で、定説を覆すような新しい知見を提供するすばらしい番組だ。ＢＳプレミアムだけでなく、地上波で放送してもよいのではないか。

○　１１月３０日(土)の「鉄旅・音旅　出発進行！～音で楽しむ鉄道旅～」を聴いた。前回聴いた時にスタジオが騒がしく音旅と言えるのか疑問に思ったが、今回もあまり変わっていなかったように思う。ただし、吉川正洋さんの中継は現場の音を遮っておらず、よかった。番組後半のアーカイブのコーナーも落ち着いて聴くことができた。一方で、「音の風景」という番組はアナウンサーのナレーションに耳を澄ますとその場にいるような感覚に陥り、臨場感あふれる放送が心地よい。この番組も、「音の風景」のような雰囲気があってもよいのではないか。

○　１２月１日(日)のＤＪ日本史「これが、拙者の旗印！」を聴いた。番組ＤＪの松

村邦洋さんの話を聴くだけで、戦国武将の旗印が目に浮かぶようだった。表現が非常に巧みで、臨場感があり、絶妙な話しぶりだった。パーソナリティーの堀口茉純さんも好感が持てた。人生訓も交えながら、歴史好きでなくても楽しめるバラエティー番組として評価したい。

○　「カルチャーラジオ　ＮＨＫラジオアーカイブス」は大変勉強になる番組だと聞く。今後も、よい番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

前回の審議会でいただいた質問にお答えする。ＮＨＫスペシャル「ダビンチ・ミステリー」では、ＮＨＫ放送文化研究所が監修している「ことばのハンドブック」にしたがって、「ダビンチ」と表記した。「ダ・ヴィンチ」と表記しても間違いではないが、「ことばのハンドブック」では、「ダビンチ」と続けて読むことが一般的であるため、音に近付けた表記を採用している。また、外国人の人名表記では姓と名で二つに分けることが多いのも理由の一つだ。

○　墓石には「ＤＡ　ＶＩＮＣＩ」となっている。本来ならばヴィンチ村のレオナルドなので、「ダ・ヴィンチ」がよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

意味の区切りでいうと「ダ・ヴィンチ」「ヴィンチ村の」と細かく切っても良い。ＮＨＫの番組での表記として「ダ・ヴィンチ」という表記を認めていないということではない。

（ＮＨＫ側）　前回の審議会でいただいた大河ドラマの次回予告に関する質問にお答えする。次回予告は、本編を担当したディレクターや編集者が制作している。また、「連続テレビ小説」の次回予告について、重要なシーンが放送されてしまう点を懸念する意見もあったが、一方で予告の内容が分かりづらいという意見もある。次週の展開を踏まえて、予告でどこまで伝えるか慎重に検討し制作している。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年１１月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、１５日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、８人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、宇都宮放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、とちスペ「Ｕ字工事のこれってとちぎだけ！？ツアー」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　原　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　員　尾形　玲子（養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）

（主な発言）

＜とちスペ「Ｕ字工事のこれってとちぎだけ！？ツアー」
（総合　６月１４日(金)放送＜栃木県域＞）について＞

○　Ｕ字工事は地元でも大変人気のあるタレントだ。彼らの親しみのあるキャラクターや礒野佑子アナウンサーの歯切れのよいナレーション、群馬県出身の井森美幸さんとの掛け合いがあり、好感が持てる内容だった。栃木県の何を取り上げるかは苦労したと思う。あまり知られていない情報もあり、３０分の放送時間の中にさまざまな内容が詰まっていた。適切な情報量と構成だった。軽快なＢＧＭが番組を盛り上げており、家族でくつろいで楽しめる内容で、放送時間帯もよかった。大谷資料館で限定公開中の教会ゾーンを説明する際に、赤いじゅうたんを敷き、ろうそくを並べるという話があったが、実際にどんな雰囲気なのか、映像でも紹介できるとよかったのではないか。

大谷石が採掘できる周囲は、石が露出してできたような山が連なる独特の地形なので、採掘場の跡地を空撮した風景も見たいと思った。古くからの建材である大谷石は、美術展の展示棚に使われるなど新たに注目されているので、最新の情報も伝えられるとなおよかった。

○　栃木県の魅力を明るく、楽しく伝えていた。出演者やアナウンサーのナレーションで盛り上げている内容だったが、テンションが高い状態が続くと番組を見ていて疲れてくる。出演者が明るい方たちなのであれば、ナレーションは落ち着いた声の方がよかったように思う。今回のような地域の見どころを伝える番組では、栃木県のどのあたりを紹介しているのかを、番組中に地図で示すと分かりやすいのではないか。ホームページなどにアクセス方法の案内があるだけでも、栃木県に行くきっかけにもなるだろう。栃木県のよさを伝える番組を今後も放送してほしい。

○　知らない場所ばかりだったので、興味深く見た。淡水魚の水族館では、人気コーナーであるアマゾンに生息する生き物の展示を中心に取り上げていた点は面白かったのだが、若干唐突な印象を受けた。なぜその展示を中心に紹介するのかといった丁寧な説明があると、より理解が深まったのではないかと思う。レインボーアイスクリームの紹介では、色みを出している原材料が栃木県ゆかりのものであるかどうかなど、番組タイトルの「これってとちぎだけ！？」に結びつくような説明があると、栃木県の魅力のアピールにもなったのではないか。一番興味を持ったのは大谷石の資料館と採石場で、栃木県ならではの場所だと思った。赤いじゅうたんを敷き、ろうそくを並べて結婚式を行うという話は、実際の映像があるとリアリティがあり、視聴者もひきつけられたと思う。午後７時半からの放送時間帯も、夕飯後に家族で見るにはよい内容だった。ただ、「これってとちぎだけ！？」というタイトルの割には、全体を通じて栃木県アピールが足りないように感じた。

（ＮＨＫ側）

時間的な制約はあったが、淡水魚の水族館については、もう少し幅広く取り上げても良かったのかもしれない。番組のシリーズ化を求める声もあるので、今回いただいた意見を参考に栃木県の魅力を伝えられる番組を制作していきたい。

○　栃木県内向けの放送だが、栃木県の人にとって魅力の再発見につながる内容だったのかどうかは疑問が残った。宇都宮駅前の大谷石でできた餃子像をもっと取り上げ、餃子について詳しく紹介する内容にしてもよかったのではないか。定番の話題を取り上げていなかったので物足りなさがあった。レインボーアイスクリームは他

の地域にも似たようなアイスがあるので、レモン牛乳やしもつかれなど栃木県特有の食べ物を紹介したほうがよかったと思う。淡水魚の水族館は、栃木県だけにあるかのような印象を受けたが、他の地域にもあるので、違和感があった。魚の紹介はアマゾンに生息する外来種ではなく、中川水系独特の魚に絞ってもよかった。今後は放送回ごとに、食べ物編、スイーツ編、特産品編、名所編など、テーマ性を持って制作すると視聴者にとっても分かりやすいのではないだろうか。

○　栃木県の方が見るには楽しくてよいと思うが、栃木県のことをよく知らない人が見ると何が栃木県の特徴なのかや、栃木県出身者以外のゲストに招く必要性も分かりづらかった。一番印象に残ったのは、大谷資料館にある大谷石の石切場だ。大谷石がどのような地形の場所にあるのかが示されるとよかったと思う。特別な許可を得て行った石の切り出し作業の体験は、採掘している様子を具体的にイメージすることができよかった。採掘場にピザ焼き体験施設を作った男性の思いをもっと掘り下げられれば、番組に深みが出たと思う。県内向けの放送で３０分という時間を考えれば、十分に楽しめる内容だった。

○　県民の日に合わせた栃木県民向けの放送で、隣接する群馬県や茨城県出身の方をゲストに入れた点も企画としてよかった。県内の人だけで話をするのでなく、北関東の人たちで集まり互いの比較をするのは、番組テーマである「これってとちぎだけ！？」とも合っており、すばらしいと思う。ただ、その人選を生かしきれず、観光案内のようになってしまっていた点が残念だった。バラエティーの要素を入れ、楽しく見られることも重要だが、栃木県ならではの特徴やその背景を詳しく説明してほしかった。番組で紹介された「これってとちぎだけ！？」というポイントもバラエティーの要素が強すぎたように思う。U字工事は素朴で味のあるタレントなので、そのよさを引き出す番組制作を行ってほしい。今回の番組は、ＮＨＫらしさが欠けた内容だったのではないか。単に楽しく伝えるだけでは、納得感が得られない。ＮＨＫのよさを生かして、親しみのある番組制作ができるとよい。

○　県内向けの放送であっても、県外からの転入者もいると思うので栃木県に詳しくない人たちが見ても分かるように、アクセス方法を示してもよかったと思う。番組タイトルに「これってとちぎだけ！？」とクエスチョンマークが付いていることから、栃木県だけではないかもしれないということを暗に含めているのではないかと思った。全体としては軽快なテンポで、気楽に見られるような構成で、鮎のぼりの話題には意外性もあった。大谷石の資料館は興味深かったので、もう少しじっくり紹介してもよかったと思う。

○　栃木県というと日光東照宮、華厳滝、鬼怒川温泉、宇都宮の餃子などが頭に浮かぶ。今回は県内向け放送なので、誰もが思い浮かべるところは取り上げていなかったのだろう。U字工事はとてもよいコンビだった。冒頭で県民の日ということばが出てきたが、なぜ６月１５日が県民の日なのかが分からなかった。また、「関東地方のほとんどの県では県民の日は学校が休みになる」と日本地図で関東地方にズームしながら伝えていたが、分かりづらい表現だった。バスの中で、北関東３県のライバル意識をフリップを使って説明する際、出演者のテンションが高く、早口で、内容が理解しづらかった。あの場面でゆっくりと話すのも違和感があるかもしれないが、視聴者に分かりやすいスピードを心がけてほしい。大谷石の石切り場は栃木県ならではのものなので、もう少し時間を割いて紹介してもよかったと思う。特別な許可を得て採掘の体験をした際、石をたたくところで失敗したU字工事が「ごめんねごめんねー」と発言した場面に、２人を起用したよさが出ていた。

（ＮＨＫ側）

県民にとってどの情報が新鮮で驚きなのかという取捨選択は難しかった。栃木県出身のスタッフも入り、地元の人の意識はどうなのかを一つ一つ確認しながら制作を進めた。大谷石で有名な大谷地区は見どころが多い。非常に広い地域なので、全体がどのような地形になっているのか、上空から見た映像で表現してもよかったかもしれない。大谷石の採石場は、宇都宮市の人にとっては、子どものころから遠足や行楽でよく行っているので、おおよそのことは知っているという面もある。県内のいろいろな人たちに向けて、番組をどう魅力的に構成するのかが課題だと考えている。

＜放送番組一般について＞

○　１０月２７日(日)のＮＨＫスペシャル「ＮＢＡプレーヤー　八村塁～“世界最高峰”への軌跡～」を見た。プレーのすばらしさや八村塁選手の人間性がよく表れた番組だった。東京オリンピックに向けても盛り上がる内容だった。

○　レオナルド・ダビンチ関連の番組を二つ見た。１１月１０日(日)のＮＨＫスペシャル「ダビンチ・ミステリー第１集　幻の名画を探せ～最新科学で真実に迫る～」では、ダビンチのデビュー作が「受胎告知」だったことや、ダビンチが深く関与し本物だと考えられている絵画は、わずか１４点しか現存が確認されていないことを

初めて知った。ダビンチの作品だと考えられている「プラドのモナ・リザ」と「糸巻きの聖母」について最新技術を使って徹底的に分析しており、彼の絵の特徴に迫る過程は興味深かった。科学的な分析に焦点が当てられ、説得力がある番組だった。１１月９日(土)のＥＴＶ特集「伊集院静　ダビンチをめぐる冒険」では、彼が幼いころを過ごしたトスカーナ州のヴィンチ村のオリーブ畑の広がる丘陵地の映像が流れたが、ここでダビンチの色彩感覚が培われたのかと感じた。２０代や３０代の頃のことも紹介されており、人柄に迫る内容だった。

（ＮＨＫ側）

今年はレオナルド・ダビンチ没後５００年に伴い世界的な盛り上がりを見せている。今回の「ＮＨＫスペシャル」は、フランスの放送局と共に、ダビンチ作の可能性が高いとされる一枚の絵画の徹底調査プロジェクトに３年間にわたって密着した。

○　１１月１０日(日)のＮＨＫスペシャル「ダビンチ・ミステリー第１集」を見た。ダビンチの作品と人物像に迫っており、非常に興味深く、すばらしい番組だった。超天才と言われ、芸術分野だけでなく、医学、生物学、物理学、工学など、あらゆる分野を探求した人物だと思う。第２集の放送が楽しみだ。なお、名前の表記は、ヴィンチ村のレオナルドなので、「レオナルド・ダ・ヴィンチ」と書くのが正式なのではないか。

（ＮＨＫ側）

もともとの語源はヴィンチ村のレオナルドではないかと思うが、番組ではダビンチと表記している。この表記に至った経緯については確認の上、次回答える。

○　１０月２６日(土)のプロフェッショナル　仕事の流儀「吉永小百合スペシャル」を見た。過去の映像も交えながら、１０か月の密着取材のなかで、吉永さんの映画に対する思いが描かれており、魅力的な内容だった。最近の映画の撮影方法の変化や、スランプに陥った際に映画の新たな魅力を感じていく話などが丁寧に描かれていた。ファンの方はもっと昔の映像も見たかったかもしれないが、その時々の感性をうまく表現して演じていきたいという吉永さんの気持ちがよく伝わってきた。長期間の取材ということなので、もう少し素の部分が見られるとよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

吉永さんに密着するなかで、彼女の「あえてプロにならず、その時の感性を大切にする」というポリシーが垣間見え、番組テーマにつながった。全体的に、深みのある取材ができたと思っている。

○　１１月１日(金)の首都圏情報　ネタドリ！「ふたりの最期の七日間～ある夫婦の愛の詩～」を見た。新聞の投書から出版、歌へと広がりを見せた題材を扱ったよい番組だった。命の大切さや夫婦のあり方について考えさせられ、幸せは日常の中にあると教えてくれた番組だった。いつか自分にも訪れる死について、思いをはせるきっかけになった。投書を採用した新聞社の担当者の話をもう少し深く掘り下げるとさらによかったのではないか。放送中に視聴者からの意見も多く寄せられ、生放送のよさが伝わり、番組が共感を呼んでいることを実感できた。スタジオゲストの女性が涙を流す中、進行役の松田利仁亜アナウンサーの冷静に伝える姿勢はすばらしかった。番組の進行に関してマニュアルのようなものがあるのか気になった。

（ＮＨＫ側）

マニュアルのようなものはなく、番組ごとに制作スタッフと議論を重ね、打ち合わせをするなかで、アナウンサーがそれぞれ自分の立ち位置を考えている。感情的になると伝えたいことが届かなくなると思い、進行役に徹したものと思われる。

○　１１月７日(木)の「ＮＨＫニュース　おはよう日本」で「本屋大賞２０１９　ノンフィクション本大賞」を受賞したブレイディみかこさんに、和久田麻由子アナウンサーがインタビューしていた。同日の「あさイチ」にも、ブレイディさんが出演しており、いろいろと話をしていた。子どもの目線で、人種差別やダイバーシティーの問題などをエッセー風に書いており、日本でも共感を呼んでいることがよく伝わった。時流を捉えており、すばらしいと感じた。

○　１１月１３日(水)の歴史秘話ヒストリア「網走監獄　最果ての苦闘」を見た。北海道の開拓は、こういう方たちの過酷な労働に支えられ、今の発展があるということが分かる番組だった。ロシアの台頭に備えて、囚人が労働力として道路建設に関わったこと、監獄の作りや囚人の逃走を防ぐために看守がいた位置などをリアルに映像で見せていた。「昭和の脱獄王」の白鳥由栄を取材した音声テープなども貴重なものだった。どのように脱獄したのかにもリアリティーがあり、執念と知識と体

力をもって脱獄に挑んでいたことがよく分かった。監獄がただの罰を受ける場所でなく、囚人の保護や更生に向けての施設であるという話も興味深かった。

○　１０月１９日(土)から始まった土曜ドラマ「少年寅次郎」を映画「男はつらいよ」へのオマージュとして見た。俳優陣に味があり、寅次郎の失恋癖は小さいときからあったのだというシナリオもよくできていた。初恋の人に好きな人がいると分かったときにふてくされ、寝転がるシーンなどは渥美清さんそのままだったように思う。毎回非常に楽しく見ている。

○　大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」を毎回楽しく見ている。次回予告の中にさまざまな場面が押し込まれすぎているように思う。場面転換が目まぐるしすぎるので、次回への期待感が得られない。「オシばん」のようにアナウンサーが語る方が分かりやすいのではないか。また、次回予告に入れているテロップも、的を絞って制作してほしい。ドラマの次回予告はドラマ自体の制作担当者が作っているのか、予告だけを作る担当者がいるのかも知りたいと思った。

○　「連続テレビ小説」の次回予告の内容も再考してほしい。土曜日に放送される予告は次週の内容を楽しみにしたいので、できるだけ見ないようにしているが、偶然見てしまうと重要なシーンが放送されていることもある。

（ＮＨＫ側）

次回予告については意見が分かれるところだ。「連続テレビ小説」は１週間分の予告を放送するので、多くのシーンが含まれている。視聴者の興味をひきながらも、物語の重要な部分は明かさないような予告を今後も制作していきたい。

○　先人たちの底力　知恵泉の１０月２９日(火)の「突然　リーダーに抜擢された時　武田勝頼（前編)」と１１月５日(火)の「組織の命運　その決断の時　武田勝頼（後編)」を見た。今回は武田信玄の息子の武田勝頼の話だった。勝頼についてはほとんど知識がなく、武田家をつぶした「暗愚の将」というイメージしかなかったが、なぜ武田家を継ぐことになったのか、３人の兄の名前は武田家の男子が受け継ぐ「信」の字が付いているのに、勝頼にはどうして付いていないのかを分かりやすく説明していた。勝頼に関する知識のなかった私もさまざまなことを知ることができ、ＮＨＫならではの大変よい番組だった。

○　１１月８日(金)の世界へ発信！ＳＮＳ英語術「ＳＮＳを見せてください～ハリー

杉山～」を見た。ハリー杉山さんがゲストで出演していたが、とても知的ですばらしい方だった。日本の自然環境の悪化を日々感じていたが、海洋プラスチックごみによる汚染の現状や問題点が伝わる内容だった。環境問題を堅苦しく伝えるのではなく、今回のような出演者が伝えると若者にも浸透しやすいのではないか。現状を伝えるだけでも意味があると思う。また、日曜日の「ＮＨＫニュース７」が終わり「大河ドラマ」が始まるまでの時間帯に「ダーウィンが来た！」を放送している。すばらしい番組だと思うが、多くの人たちがテレビを見ている時間帯なので、環境問題や世界の現状を伝えるような内容を短い時間でもよいので放送してはどうかと思った。国際ニュースはＢＳ１で放送しているが、多くの人が見る時間帯に総合テレビでも世界の状況を知らせる内容を伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

国際ニュースを専門的に扱う番組はＢＳ１に多いが、総合テレビでも国際ニュースを取り上げている番組もあるので、興味をもってもらえる演出方法を考えていきたい。

○　１１月９日(土)の「特別編　蜜蜂と遠雷～若きピアニストたちの１８日～」(BSﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 6:00～7:15)を見た。４月６日(土)に放送した番組の再放送だったが、１人の演奏者のみに密着するのではなく、他の演奏者やコンクールに関わる周囲の人たちの情報もバランスよく扱っており、よかった。ピアニストの牛田智大さんと亡くなった中村紘子さんの秘話は興味深かった。番組の随所に、俳優の中川大志さんによる原作小説の朗読があり、実際の青年たちのコンクールでの戦いの様子と自然に関連づけられた構成はすばらしかった。

○　１１月１０日(日)のＣＯＯＬ　ＪＡＰＡＮ「学校行事～ｓｃｈｏｏｌ　ｅｖｅｎｔｓ～」を見た。日本の学校行事がいくつか紹介されたが、世界との違いに驚いた。日本の小学校の自由研究なども紹介され、特徴的な内容で興味深かった。自由研究は、家族も関わることが多々あり大変な様子など、実態が伝えられていた。修学旅行の紹介では、各グループがタブレットで先生に居場所を報告するなど最新の様子がよく分かった。最近の修学旅行は、観光地をめぐるだけでなく、農業体験や民泊をさせることもあるので、そのような最新事情を紹介してもよかったのではないか。また、近年学校行事が簡略化される中、生徒の自主性を育むために、逆に力を入れている学校が紹介されていてよかった。日本の学校の先生は勉強のみならず生活面もサポートしていることなど、海外の学校との違いが分かった。

○ 今回の台風１９号に関連して、ＮＨＫは地域での被災者支援や防災対策について、

さまざまな形で取り上げていた。考えさせられる内容も多々あり、公共放送として尽力していると感じた。

○　外国に滞在している時、ＮＨＫワールドＪＡＰＡＮを見た。日本の情報だけでなく他国の情報も含めバランスよく放送していて、よかった。今後も海外の人たちに日本の魅力を発信し続けてほしい。

○　教育コンテンツのみを対象とした国際コンクールである日本賞でグランプリを受賞した「アフリカのブッダ」のダイジェストを授賞式で見た。例年ＮＨＫでは、日本賞受賞作品を放送していると思うが、世界から良質な番組が集まっているので、多くの人が見られる時間帯に放送してほしい。事前の予告にも力を入れし、さまざまな人に番組を見ていただけるよう工夫するとよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

今年度も日本賞受賞作品は１２月に放送を検討している。多くの方にご覧いただけるよう、頂いた意見は今後の参考にする。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年１０月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、１８日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、８人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、横浜放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、にっぽん列島夕方ラジオ　横浜サウンド☆クルーズ　はま☆キラ！「児童文学作家　角野栄子さん」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　　原　　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　　員　　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
尾形　玲子（養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
宮田麻一美（万座温泉日進舘女将）

（主な発言）

＜にっぽん列島夕方ラジオ　横浜サウンド☆クルーズ　はま☆キラ！
「児童文学作家　角野栄子さん」（ラジオ第１　７月２４日(水)放送）について＞

○　ラジオは音のみで伝えなければいけないという難しさがあるが、楽しく聴くことができた。偶然番組を聴く人もいれば、聴きたくて聴く人もいる。あるいは、ゲストのファンだから聴くという人もいるだろう。さまざまな人たちがどのような気持ちで聴いているのかを考えた。冒頭でゲストの角野栄子さんを紹介する際、その日着ていた服装も含めて丁寧に紹介していたので、イメージを膨らませながら聴くことができた。角野さん原作の映画「魔女の宅急便」のサウンドトラックがＢＧＭに使われていたのも好印象だった。番組は、角野さんのコーナーとアフリカ盆踊りプロジェクトを紹介するコーナーに分かれていたが、５０分間すべて角野さんに関する話でもよかったのではないか。「チェック柄の風が吹く」という彼女特有の表現

に衝撃を受け、そのひと言の余韻に浸りながら番組を聴いた。番組を思い返した時に印象に残る言葉があるのはよい。エンディングテーマで「やさしさに包まれたなら」がジャズバージョンで流れたが、原曲が聴きたかった。なぜジャズバージョンの曲にしたのか知りたい。

（ＮＨＫ側）

「横浜サウンド☆クルーズ　はま☆キラ！」はもともとＦＭで神奈川県域向けに放送している番組だ。今回のようにラジオ第１では全国向けの放送になるが、ＦＭで放送している時の特徴を生かし、さまざまな音楽を取り入れるようにしている。あの時間帯は、番組構成上歌が入っていない音楽を流す必要があったため、ジャズバージョンの曲を選んだ。

○　番組を聴いて、角野さんの作品の魅力にひかれた。彼女のことをあまり知らなくても楽しめる番組だった。ＮＨＫ全国学校音楽コンクール小学校の部の課題曲「わたしは　こねこ」を流す際、角野さんが２番の歌詞の魅力も伝えていたので、２番まで聴けたらよかったと思う。歌っている合唱団も詳しく紹介してほしかった。また、番組のバックで流れている曲は映画のサウンドトラックだと補足があれば、より楽しく聴けたのではないか。番組で紹介されていた本は私も読んだが、角野さんの自伝のように感じる本だったので、進行役の２人が事前に読んでおくと、より話題が膨らんだのでないかと思った。全体を通しては、竹平晃子キャスターと関口健アナウンサーによって、角野さんの魅力が十分に引きだされた番組だった。

○　角野栄子さんの作品は「魔女の宅急便」しか知らないというリスナーもいたと思うので、代表作品の紹介があってもよかった。「国際アンデルセン賞・作家賞」の受賞理由やほかの受賞作品などがあれば知りたかった。「魔女の宅急便」の創作にあたっての裏話をもっと聴くことができたら、彼女をより身近に感じることができたのではないかと思う。音楽コンクールの課題曲「わたしはこねこ」の裏話を聞くと言いながら映画「魔女の宅急便」の曲がかかった時は違和感を覚えた。放送中にファックスやＳＮＳで寄せられたリスナーの声を紹介すると、番組がさらに盛り上がったのでないか。「わたしはこねこ」の曲を流したあとに、キャスターが歌詞を改めて朗読したのはよかった。

（ＮＨＫ側）

キャスターが事前にしっかりと準備をすることで、ゲストの言葉に瞬発力を持って反応することができ、番組のおもし

ろさにつながると思う。頂いた意見を現場とも共有したい。

○　「想像力を使って楽しむ」という話が印象に残った。お金をかけたり、どこかに出かけたりしなくても、幸せな気持ちになれることがよく伝わってきた。「チェック柄の風が吹く」という表現に感動した。すばらしい感性をお持ちの方だと思った。「やさしさに包まれたなら」のジャズバージョンも魅力的だった。角野さんは、課題曲にあえてメッセージを込めないとおっしゃっていたが、歌った子どもたちも角野さんのように想像力を働かせてくれればよいと思った。

○　番組後半の神奈川のトピックを紹介するコーナーで紹介された「アフリカ盆踊りプロジェクト」は興味深い内容だった。盆踊りプロジェクトで使用されている美空ひばりさんの歌を改めて聴き、本当にすばらしい歌声だと思った。美空さんの歌声がアフリカの大地に流れる様子を想像した。進行役の２人がさわやかな雰囲気を出していて、よかった。

○　ラジオは映像がないので、知らないことや興味のないことに関しては、よほどよく聴かないと頭に入ってこないと思う。この番組は、角野さんを好きな方は彼女の話を楽しめる構成になっており、また、知らない方が何気なく聴いたとしても印象に残る内容になっていた。非常によくできた番組だった。番組を聴き終わると、最終的には鎌倉に行きたくなり、神奈川県は魅力の多い場所だと実感した。ゲストのこと、鎌倉のこと、横浜のことなど、深く知りたい方にとっては非常によい番組だ。ゲストの人となりも十分に伝えることができていた。

（ＮＨＫ側）

神奈川県は著名人が多い。また、鎌倉のように 1,000 年の歴史があるところもあれば、川崎、横浜のような都市もある。また、小田原のように戦国時代に栄えた地域もある。伝えるべきことが多くある地域なので、できるだけいろいろなことを全国に分かりやすく発信することを心がけている。

○　横浜らしいおしゃれな番組だった。ラジオの聴き方は人によってさまざまだと思う。構成がとてもよく考えられており、一部だけを聴いても十分に楽しめる内容だった。角野さんの声だけでなく、関口アナウンサーと竹平キャスターの声も非常に聴きやすく、気持ちがよかった。２人が出過ぎず、角野さんの話をうまく引き出していた。３つのキーワードという形で番組を進めていたのもおもしろかった。私も角野さんの想像力のすばらしさにひかれた。想像力は全員が持っているもので、

身近にあるということを教えられた気がする。「アフリカ盆踊りプロジェクト」の内容には意外性があった。

○　横浜放送局はこれまで神奈川県域向けにＦＭで放送してきたが、今年からこのような取り組みができ、横浜らしさを全国に発信できる機会を持てたと思う。角野さんが「国際アンデルセン賞・作家賞」を受賞されたことは、ラジオの中でもう少ししっかりと取り上げてもよかったのではないか。ラジオは導入部分が重要だと思うが、横浜色も出ていて非常によかった。また、ＮＨＫ全国学校音楽コンクールの実施を前に、角野さんが作詞を担当した課題曲に触れていた点も、情報が多角的に提示されており、評価したい。「アフリカ盆踊りプロジェクト」を取り上げたのは、アフリカ開発会議が横浜で開催されたことにあわせての紹介だったと思う。今後も神奈川の多面的な魅力を発信してほしい。

（ＮＨＫ側）

横浜ならではのおもしろい取り組みで、タイミングとしてもよかったので取り上げた。「アフリカ盆踊りプロジェクト」は、この番組だけでなく８月２７日(火)の「ひるまえほっと」でも紹介した。

○　角野さんのことをあまり知らなかったので、真っさらな状態で番組を聴いた。イントロの曲はジャズ調のピアノ曲だったので、これから始まる番組にワクワクと期待が膨らんだ。初めにゲストの方の名前、肩書、服装を紹介したことで、イメージを具体的に持つことができた。曲が終わった後すぐに次の話題に移っていたが、ラジオは途中から聴く人もいるので、曲が終わったあとにも曲名や歌手名を紹介したほうがよいと思う。番組のバックで流れるＢＧＭの音量が少し高く、声が聴きづらい部分があった。

（ＮＨＫ側）

これからもトークやジャズライブの内容を充実させていきたい。また、台風被害からの復興の様子なども取り上げ「はま☆キラ！」を存在感のある、地域情報発信番組にしていきたい。

（ＮＨＫ側）

もともとＦＭ番組からのスタートだったので、音楽をたくさん取り入れている。曲の紹介は丁寧に行いたい。

＜放送番組一般について＞

○　１０月１７日(木)のＮＨＫスペシャル「巨大台風　“流域型洪水”の衝撃」を見た。台風１９号が残した爪痕はすさまじく、ニュースも欠かさず見ている。番組では、浸水した町の実態や堤防の決壊など、時間をおいて起こる災害を分かりやすく解説していた。自然災害の恐ろしさを改めて感じた。ＮＨＫは台風が過ぎたあとも、粗大ごみに関する情報や司法書士や弁護士への相談窓口など、非常にきめ細かな生活情報を提供していた。ＮＨＫだからこそできる取り組みだ。今回の番組では、台風被害の現実や被災者の声、台風のメカニズムなど、あらゆる情報が番組に盛り込まれていた。国民の生命を守るライフラインの一つとして、これからも情報を発信してほしい。広域で復旧に向けて動いているので、今後も密着し、取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

今回の台風は、勢力が衰えないまま関東に上陸するという過去にあまり例のない異例のケースとなった。台風の質が変わってきていることも踏まえ、ＮＨＫは公共メディア、公共放送として被災した方々に寄り添い、生活の支援や復旧に向けたきめ細かい情報をテレビ、ラジオ、インターネットなどあらゆる伝送路を使った発信を強化し、皆さまのお役に立てるように努める。

○　台風の被害が徐々に判明し、多くの犠牲者が出ている実態も分かってきた。栃木県域向けのニュース番組「とちぎ６４０」に出演しているアナウンサーも、氾濫した川の近くから台風の被害状況をリポートしており、放送局総動員で報道にあたっていると感じた。１０月１６日(水)の「とちぎ６４０」では、リスクが高い再避難を取り上げていた。インタビューも行いながら、避難所の再点検の必要性を伝えており、よかったと思う。

○　１０月１５日(火)のクローズアップ現代＋「同時多発　河川氾濫の衝撃～緊急報告・台風１９号～」、１０月１７日(木)のＮＨＫスペシャル「巨大台風　“流域型洪水”の衝撃」(総合 後 10:00～11:00)を見た。ＮＨＫスペシャルでは、「流域型洪水」や「温暖化型台風」のメカニズムをわかりやすく説明しており、非常によく

理解できた。温暖化の影響で今回のような台風が毎年のように来ることを考えると、これまでの経験や教訓だけでは不十分だと思う。今後もさまざまな視点で、今回の災害の検証や社会への問題提起、警鐘となるような番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫスペシャル」では温暖化がこのまま進んだら台風がどのような脅威となるのか、これまでも「巨大災害　ＭＥＧＡ　ＤＩＳＡＳＴＥＲ」などのさまざまな番組で取り上げてきた。そこで警鐘を鳴らしていたことが現実として起きているように思う。番組で紹介した実験なども、これまでの取材の蓄積の中でさまざま行ってきたことが、今回の番組にも生かすことができた。今回の災害が問いかけるものは非常に大きいので、今後も検証を行いながらさまざまな形で取り上げていきたい。

○　台風１５号の影響で、千葉県の南部を中心に悲惨な状況になっていたが、直後にはあまり報道がされなかったように思う。台風１９号はかなり報道されているので、違いが気になる。ＮＨＫにこそ、被災地の状況を詳しく伝える義務があるのではないか。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見を重く受け止め、今後の災害報道に生かしていきたい。

○　今回の台風で、防災・減災報道とは何かを考えた。今回は東京都、神奈川県、千葉県などで大変な被害が出るのではないかと事前に報道されていた。しかし、台風が過ぎてみると、予測できなかった地域で川の氾濫が起きていた。「クローズアップ現代＋」や「ＮＨＫスペシャル」などでは台風の直後に被害を検証していたことを高く評価したい。一方、事前の報道を含めて、今の伝え方でよいのかを考えさせられた。気象災害の質が変わってきているということについて人々に警鐘を鳴らす番組も必要だと思った。なお、私の周りには被害が出た地域に行くのは危険ではないかと考える人もいた。総合的に情報を発信していかないと被害を受けた地域の経済が停滞することもあると思う。台風報道に関する伝え方を今後も検討してほしい。

○　風評被害に対する報道のあり方も考えてほしい。

（ＮＨＫ側）

台風の質が変わってきた中で防災・減災報道のあり方を変えていかなければならないと思っている。今回の台風１９号に関する報道についても、視聴者にとって何が有効な情報で、どんな情報が伝わりにくかったかを検証したい。風評被害についても、細心の注意を払っていきたい。

○　ＮＨＫの報道は信頼できる。このような被害に直面すると、私たちの暮らしも見つめ直さなければいけないと感じている。今回の台風では、地球温暖化の影響も指摘されている。今後、環境問題に関する提言や取り組みも含めた報道があるとよいと思う。

○　台風の大きさや刻々と変わる進路の状況も伝えてほしいと思う反面、地元のわが町は問題ないのかという不安もある。ＮＨＫの首都圏情報の中では、千葉県、埼玉県、神奈川県の情報が取り上げられる割合は、どうしても少なくなってしまう傾向があり残念なことがある。各地の放送局のアナウンサーが現場からリポートするなど工夫されているようだが、どのような態勢になっているのか知りたい。台風の時は、保育園の運営状況などは自治体によって対応が異なることが多いので、きめ細かな生活情報を提供してほしい。台風のメカニズムや被害状況を検証し、暮らしの中でどう防災・減災につなげていくか考える必要性を感じた。

（ＮＨＫ側）

今回の台風では、広域でさまざまな被害や影響が出た。テレビだけでは限界があるので、ラジオ、インターネット、データ放送などを使い、身近な中小河川の危険な状況、道路の状況、鉄道の状況などきめ細かな情報を発信した。今後もあらゆる伝送路で情報を発信し、皆さまに利用してもらえるよう心がけたい。

（ＮＨＫ側）　今回は東京をキーステーションに各地の中継現場を結び、できるだけきめ細かな情報を伝えることを心がけた。台風１５号の際は、全国向けの番組を放送する時間帯に１都６県に向けた台風関連番組を放送するという取り組みも行った。今後も地域の人たちにとって必要な情報を伝えられるよう取り組んでいきたい。

（ＮＨＫ側）

今回の台風報道では、インターネットも駆使しながら伝えている。ライフライン放送では、放送現場以外の職員も加わり、放送局全体で取り組んでいる。

○ 台風報道に関して、ＮＨＫが新たな取り組みを実践していることがよく分かった。一般の人たちにそれらがすべて伝わっているのかという課題もあると思うので、今後、ＮＨＫの取り組みについても伝えてほしい。

○ 台風で停電した際に、ラジオをつけたところ「安心ラジオ」という番組が放送されていた。非常に心が落ち着き、役立つ内容だった。堤防の決壊や濁流の流れ込み、新幹線基地の水没などといった情報もラジオから得ることができた。ふだんの生活には情報があふれているが、停電時はほとんど情報がなく、自分の置かれている状況を理解することができなかったので、改めてラジオの重要性を感じた。

（ＮＨＫ側）

「安心ラジオ」は平常時にも放送している５分番組で、過去の災害で得られた教訓のほか、健康や防犯、消費者問題など、暮らしの安心に役立つ情報をお届けしている。ラジオは常日頃から安全・安心の要として機能する必要があると考えている。

○ １０月６日(日)の目撃！にっぽん「筆走れ　心のままに」を見た。障害も個性もさまざまな人たちが通う書道教室を取り上げた番組だった。そこで、ボランティアで書道を教えている西里俊文さんが一人一人に向き合い、それぞれの心に負担をかけないよう大きな包容力で包み込みながら前向きな気持ちを引き出そうとする姿に胸を打たれた。早くに亡くなってしまった教え子の「あなたにあえてよかった」という書に感動した。続編も見たい。

○ １０月４日(金)のららら♪クラシック「ｆｅａｔ．“蜜蜂と遠雷”」を見た。映画の話なども含め、非常に楽しく見た。原作の小説も読んでいたので、活字で描かれた演奏の部分が映画でどのように映像化されるのかと思っていた。作曲を担当した藤倉大さんが小説の中のいろいろなことばを書き出しながら制作したという映像化の一連の経緯を話しており、興味深く見ることができた。今回のように、映画などで話題になったものからクラシック音楽に入ってもらうと、裾野を広げることができるのではないか。内容が充実しており、楽しめる番組だった。

（ＮＨＫ側）

クラシック音楽のすばらしさや文化としての豊かさをいかに分かりやすく伝えるのかを考えて制作している。

○　ＥＴＶ特集「シリーズ日系人強制収容と現代」が１０月５日(土)と１２日(土)の２回にわたって放送されていたが、本当にすばらしい番組だった。過去に起きたことをしっかりと認識し、そのことが現代に引き継がれ、よりよい社会を築くために未来に生かされていると思った。１２日(土)の「暗闇の中の希望」はハミルトン宣教師を中心に描いていた。希望のないような中においても、いろいろな差別にあらがう子どもたちを見つめた生き方に感銘を受けた。また教えを受けた子どもたちのその後の描き方もすばらしかった。

○　９月２１日(土)の「運慶と快慶　乱世が生んだ美の革命」(BSﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 9:00～9:59)を見た。５月２６日(日)のＮＨＫスペシャル「運慶と快慶　新発見！幻の傑作」と構成が変わっており、科学的な検証も加わっていて、説得力があった。「ＮＨＫスペシャル」に出演していた運慶快慶の専門家の清泉女子大学の山本勉教授が出演されていなかったのは残念だった。奈良の安倍文殊院に納められた像について、国宝に「登録」されたというナレーションが入っていたが、国宝は「指定」と言うのではないかと思う。

○　１０月３日(木)のザ・プロファイラースペシャル「関ヶ原３つの“ＩＦ”」(BSﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 9:00～10:59)を見た。簡潔、かつ丁寧に史実が説明されていたが、肝心の「ＩＦ」の部分の設定が甘いと思った。史実と「ＩＦ」の境目は明確に分けるべきだが、何となく流れてしまったように思う。合戦のシミュレーションは結論ありきで、原因、過程がきちんと説明されていなかった。再現ドラマや実験などは分かりやすかった一方で、再現ドラマで徳川家康を演じる人がドラマごとに異なっていた。一つの番組なので同じ人物が一つの役を演じたほうがよいと思う。最後の黒田官兵衛のところでは黒田官兵衛のファンであるコピーライターが出てきたが、違和感があった。番組終盤のテロップで「都は大阪？」と表示されていた。当時の地名を示すのであれば「大坂」ではないかと気になった。

（ＮＨＫ側）

今回は新しい演出にチャレンジした。指摘はスタッフとも共有し緻密な制作を心がけたい。

○　１０月９日(水)の「絶景カメラ　尾瀬」(BSﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後9:00～9:59)を見た。さまざまなカメラアングルで多角的に尾瀬を見せており、大変すばらしかった。番組を見ただけで、１日リラックスして過ごせるような気分になった。どんな撮影クルーなのか、これ以外にもシリーズとして放送する予定はあるのか気になった。

（ＮＨＫ側）

「絶景カメラ　尾瀬」は外部プロダクションが提案し、制作したものだ。ふだん見られないような角度で、いろいろな撮影方法を使いながら、自然のすばらしさを多角的に伝えるという意図で制作した番組だ。自然を大切にしながら美しい映像を撮ることにこだわった。続編を制作するうえで、いただいた意見は参考にしたい。

○　尾瀬はダムになる可能性があるなど環境問題についてもさりげなく番組の中に盛り込まれていた。カメラアングルについて、抵抗のある人はいなかったかなどといったことも検証してほしい。

○　１０月５日(土)の「鉄旅・音旅　出発進行！～音で楽しむ鉄道旅～」を聴いた。音だけで聴くと、それぞれの車両のモーター音がこんなにも違うのかと、感動した。車内のアナウンスが流れているときにゲストが話し出してしまう場面があったが、これは「音鉄」にとっても残念なことだと思う。肝心の音を邪魔してしまうことがないよう注意してほしい。ゲストの歌が始まったところで急に交通情報の音声が流れたので、驚いた。ボーカル入りの歌だったので曲をしっかりと聴くことができず、残念だった。また、生放送なのでリスナーの声をできるだけ取り入れたほうがよいと思う。そのためには、番組のＰＲがもっと必要だ。番組最後の「貴重なてつおと発掘隊」というコーナーでは、古い音源についてＮＨＫアーカイブスの利用があった。よい取り組みだと思うので続けてほしい。

○　「クローズアップ現代＋」は、日頃から今知るべきテーマに切り込み、すばらしい番組を制作していると思う。かんぽ生命保険の不適切販売をめぐる問題を取り上げた「クローズアップ現代＋」の取材、放送が不当な圧力によってゆがめられたのではないかという報道について、ＮＨＫ側からどのようなコメントがあるのか気になり、さまざまな番組を見ていたが、取り上げた番組を見ることができなかった。現状、どのような状態になっているのか知りたい。

（ＮＨＫ側）

一部の報道で指摘されているような自主自律、番組編集の自由が損なわれたという事実はない。通常、取材のプロセスは公開しないことを原則としているが、今回は番組への信頼、ＮＨＫの信頼を守る意味でも、「クローズアップ現代＋」のホームページで経緯についての公開を予定している。

（ＮＨＫ側）

１０月１１日（金）の衆議院予算委員会で、国会でこの問題が取り上げられた。そのことを当日の夕方のニュースでＮＨＫ会長の見解も伝えた。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年９月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、２０日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、６人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、千葉放送局の取り組みと今後の予定について報告した。続いて、さいたま放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、２０１９年度後半期の国内放送番組の編成について説明があり、２０２０年度の番組改定とあわせて意見の交換を行った。その後、おはよう日本（枠内特集）「東京圏ホストタウン　歓迎と不安・市民は…」と「パラスポーツ指導員　誰でも楽しめる運動を」について説明があり、続いて、おはよう日本（土曜特集）「元少年の“存在証明”獄中からのメッセージ」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１０月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　　原　　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　　員　　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
　　杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
　　杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
　　仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）

（主な発言）

＜「２０１９年度後半期の国内放送番組の編成」および
「２０２０年度の番組改定へ向けた意見聴取」について＞

○　来年は東京オリンピック・パラリンピックがある。後期改定では、「２０２０スタジアム」の月１本程度の放送を予定しているようだが、少ないのではないか。３月以降、東京オリンピック・パラリンピック関連番組を増やしていく予定はあるのか。

（ＮＨＫ側）

2020年４月以降の放送についても、検討を始めている。来年３月末から始まる聖火リレーをどう伝えるかや、「２０２０スタジアム」の４月以降の放送継続など、さまざまなことを考えている。特集番組を編成するだけでなく、定時番組の中で東京オリンピック・パラリンピックをどう取り上げていくかも重要な要素になる。

○　東京オリンピック・パラリンピックに向けて、放送業界全体で盛り上げていくことはよいことだと思う。

○　「いば６」の天気予報の変更はすばらしい改善だ。いつも、後半２分間だけ全国の天気予報に切り替わることに違和感を持っていた。連続性や統一性をもって伝えることは大変よいことだ。今後も期待したい。

（ＮＨＫ側）

地域の方々の目線に立つことを重要視している。全国の天気も、地域の目線で見るほうが理解しやすく、活用しやすいのではないかという思いから変更をすることにしたと聞いている。

＜ＮＨＫニュース　おはよう日本　枠内特集
「東京圏ホストタウン　歓迎と不安・市民は…」（総合　７月２５日(木)放送）
「パラスポーツ指導員　誰でも楽しめる運動を」（総合　８月２０日(火)放送）
について＞

○　「東京圏ホストタウン　歓迎と不安・市民は･･･」については、外国人との共生というどの地域にもある身近な問題を、取り上げたことはよかった。千葉県山武市がスリランカのホストタウンに選ばれたということは分かったが、なぜもともとスリランカ人が多い地域だったのかも説明してほしかった。今後は、スリランカ人の視点で見た課題も取り上げてほしい。

「パラスポーツ指導員　誰でも楽しめる運動を」についは、千葉放送局では４年前から、東京オリンピック・パラリンピックに向けて「パラスポーツフェスタちば」を実施しており、方向性が同じでよいと思う。パラスポーツというと、障害者の視点で描きがちだが、今回は、指導者育成という観点で取り上げていた点が非常によかった。

全員で考え、実践していくという取り組みがしっかりと描かれていた。

○　「東京圏ホストタウン」については、市役所の臨時職員のサジーワニー・ディサーナーヤカさんが実践している取り組みを具体的に紹介できていた。彼女がいるから実現していることが多いと思う。一方で、この番組を見ただけでは、ホストタウンの意味がよく分からなかった。このシリーズを毎日見ている人は理解できるかもしれないが、たまたまその日だけ視聴する人もいる。ホストタウンの定義を番組の中で短くてもよいので伝えたほうがよかったのではないかと思った。また、山武市に270人のスリランカ人が定住している理由もよく分からなかったので、そのあたりの事情も丁寧に描くとよかったのではないかと思う。

「パラスポーツ指導員」は、指導員の林隆之さんが行っている工夫を分かりやすく紹介できていた。特に、ペットボトルに鈴を１個入れ、音が鳴るようにするというボーリングでの事例は分かりやすかった。指導員同士のワークショップも取り上げていたが、このような活動に精力的に取り組む方々がいることはすばらしいことだと思う。パラスポーツの普及に取り組む人たちに焦点が当てられており、よかった。

○　「東京圏ホストタウン」については、ホストタウンとは何なのかという説明があってもよいと思った。ただ、今回取り上げた問題は、外国人労働者の増加に伴うもので、ホストタウンに限った問題ではないので、どう捉えるべきか分からなかった。ホストタウンというのは、自治体側が歓迎し積極的に受け入れるもので、外国人労働者が単純に増えている町とは、意味合いが違うと思う。受け入れ体制がある中で、ホストタウンの肯定的な面をもっと前面に出してもよいのではないかと思った。

「パラスポーツ指導員」について、パラスポーツというと身体に障害のある方のスポーツがよく取り上げられていると思うが、今回の番組を見て、パラスポーツは知的障害のある方にとってのスポーツでもあるということが分かり、活動に取り組む人たちの様子は興味深かった。「障害者」の表記について、「障害者」を使うという説明があったが、今回の番組で、クレジットの施設名は「障がい者」になっており、違和感があった。どちらかに統一したほうがよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

ことばや表現について共通する問題や、判断に困ることばなどについては「放送用語委員会」で審議し決定している。「障害者」の表記についても、実態調査の実施も含めて検討を始めていきたい。なお、放送上は「障害者」の表記を使っ

ているが、施設名などの固有名詞の場合はそのまま表記している。

○　「障害者」に違和感はなかった。昨今、当事者がどう思うかが重要なのではないかと思う。

○　個人的には、東京オリンピック・パラリンピックが始まるまでに統一できるとよいと思う。

（ＮＨＫ側）

意見をまとめるにはさまざまな段階を経る必要がある。各方面からの意見を聞き、慎重に検討したい。

○　「東京圏ホストタウン」について。山武市が、東京オリンピック・パラリンピックに向けて「共生する町へ」というスローガンを掲げて、３年前にサジーさんを採用し、地域住民と外国人との橋渡し役になっている一連の流れが分かりやすく描かれていた。ホストタウンは日本中にあるので、山武市ならではの特徴、課題が描かれているとよかった。そうすることで、視聴者はスリランカに対して興味もわき、サジーさんの苦労も具体的に伝えることができたのではないか。一般的な話にとどまっていたのは残念だったが、番組の流れは分かりやすかった。

「パラスポーツ指導員」については、競技だけでなく、障害者が取り組みやすい運動を広めるという目的が一貫して描かれており、分かりやすく、好感が持てた。障害者の人たちもこれから継続的に運動をきちんとやるという意欲が具体的な取り組みとともに描かれていた。保育士とのディスカッションの内容は、初めて知ることも多く、一般の人たちが理解するきっかけにもなるだろうと思った。これから障害者の人たちと共生する社会を形づくっていく上で、今回のような番組が必要になっていくと思う。

○　「東京圏ホストタウン」は、ホストタウンと共生の町づくりとの関係性が整理されると分かりやすかったと思う。千葉県内でどの程度の数の自治体がホストタウンとして受け入れを行っているか全体像を示した上で、山武市ならではの取り組みを取り上げるとよかったのではないか。臨時職員のサジーさんが、両国の橋渡しの役を果たしていることが重要だと感じた。

「パラスポーツ指導員」については、パラスポーツの振興と子どもたちの発達支援としてのスポーツのあり方という二つのことが同時に描かれた番組だった。障害のある子どもたちも含めて、小さいころからどうやってスポーツに親しんでいくの

かが重要で、その具体的な進め方がよく理解できる内容だった。指導者側に焦点を当てた内容だったが、発達支援についても、一般的に保育園や幼稚園、小学校の先生たちも理解しておくべき内容だと思いながら興味深く拝見した。番組の最後に、「次回の研修会は、一般の方も参加できるそうです」というコメントがあったが、大変な面もあるだろうと推測する。今後の展開に期待したい。

○　「東京圏ホストタウン」は、番組が短かったせいか、主人公のサジーさんの紹介番組のように感じ、タイトルとも、あまり結びついていない印象を受けた。戸惑う日本人としてインタビューを受けた人が地元の代表とテロップで紹介されていた点に違和感を覚えた。ホストタウンの概念は一般的になっていると思うが、やはり番組の中でも説明する必要があったのではないか。

「パラスポーツ指導員」も短い時間で紹介するのは大変難しいという印象をもった。さまざまなスポーツが紹介されていたが、あまり印象に残らなかったので、二つ程度に絞ってもよかったのではないかと思う。

○　「東京圏ホストタウン」については、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、スリランカのホストタウンに決まった山武市にスリランカの方が 6 年前に比べると 5 倍の 270 人が住んでいるということだったが、その急増の理由は東京オリンピック・パラリンピックのためだけだとは思えなかった。不安を抱えるスリランカ人女性同郷のサジーさんが対応すると笑顔に変わる姿が印象的だった。外国人とのトラブルは生活習慣、文化の違いなど、お互いの無理解から生まれることが多いと思う。気持ちを受け止め、橋渡しをしてくれる存在はとても貴重だ。文化交流を通し触れ合うことで親しくなり、それぞれの世界も広がると思う。出入国管理法の改正もあり、このような具体的な取り組みは今後も紹介してほしい。時間が許すのであれば、不安を抱える日本人の住民の声、その対応なども知りたかった。

「パラスポーツ指導員」については、パラスポーツの普及に取り組む林さんの活動の姿が、大変興味深かった。強い選手を育てることが目的ではなく、どんな障害があっても身近にあるものをひと工夫することで何かができる可能性があるということを感じさせられた。

両番組とも短い時間でよくまとめられていた。ただ、「東京圏ホストタウン　歓迎と不安・市民は…」の冒頭に出ていた「大東京圏」ということばには違和感を覚えた。

○　二つの番組のキーワードは 2020 年以降につながる、つなげるということではないかと思った。オリンピック以降も、日本国内に小さなレガシーを残すことが必要という思いが伝わる番組企画だった。

「東京圏ホストタウン」は、山武市ではスリランカ人のサジーさんを臨時職員として採用したことで、これからもスリランカ人に生活面での安心感を与え、地域内の日本人と外国人との交流も一層盛んになるだろうと思った。

「パラスポーツ指導員」については、指導員の林さんの誰もが楽しめる運動の普及も、これから花を咲かせると思う。

スリランカ人のサジーさんにしても、指導員の林さんにしても、一生懸命に取り組む姿勢や思いが周りに伝わり、朝の短い番組だが、2020 年以降にもつなげることが大切というメッセージが伝わってくる番組だった。一方で、外国人との共生であれば文化、宗教の違いなどの課題をどのように克服しているのか、パラスポーツであれば障害者のスポーツ普及を阻むような問題があるのか、ＮＨＫにはそういう問題、課題も取り上げ、視聴者に情報提供をし、問題提起する番組も制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

「東京圏ホストタウン」について、ホストタウンの説明があったほうがよかったという指摘や、スリランカ人が多く千葉県山武市に定住している理由が分からなかったというご意見は、今後に生かしたい。「パラスポーツ指導員」は、千葉放送局がパラスポーツの普及、理解促進に長く取り組んでいるなかで、企画したものだ。今後も、各団体やさまざまな取り組みの活性化につながるような番組を制作していきたい。

＜ＮＨＫニュース　おはよう日本　土曜特集
「元少年の“存在証明”獄中からのメッセージ」（総合　８月３１日(金)放送）
について＞

○　松井亮太さんの歌っている顔に、画面の右上に表示されているタイトルが重なったときがあった。本人に失礼であり、視聴者としても見づらいので、今後注意してほしい。少年が心理的な虐待を受けて犯行に至る経緯が丁寧に説明されていて、歌詞につづられた少年の思い、後半に紹介される「穢（けが）れ」ということばの重さと真摯（しんし）さがリアリティーをもって感じられ、よい構成だった。欲を言えば、少年が母親から犯行を命じられていた場面で流れていた自殺防止キャンペーンソング「あかり」の歌詞をもう少し紹介してほしかった。母親がその後どう

なったのかも知りたかった。全国に向けても放送するべき内容だと思った。

○　歌や音楽は人の救いになることがあることを教えてくれる番組だった。土曜日の朝に視聴するにはテーマがやや重いように感じたが、全国放送でも取り上げるべき内容だったと思う。個人的には、「ひとモノガタリ」が好きでよく視聴しているが、あのような番組で取り上げてもよいと思った。

○　簡潔な内容でありながらも、テーマが多層的で、興味深く、率直によい番組だと感じた。ライブで涙を抑えるようなシーンが最初と最後にあったが、松井さんの曲を聴いて涙を流す人の映像が複数入ることによって、テーマが弱くなっているように感じた。当時１７歳の少年が母親から殺害を命じられるという衝撃的な内容なので、少年に同情するだけではなく、もっと多角的な支援をしないといけないのだろうと感じた。また、歌手の松井さんの人物像や少年が罪を犯した背景ももっと知りたかった。歌が人を助けることも重要なテーマだと感じた。もっと長時間の番組でも見るに値する内容だったと思う。

○　番組が伝えたかったことは、裁判長の「周りに大人がいたのに、誰か少年を助けられなかったのか」という問いかけに対する答えだったのではないか。今回、松井さんが書いた曲を聞くことによって、周囲の人たちが少年の更生を支援するよいきっかけになるのではないかと感じた。昨今、家族間で発生する事件がよく目にするがが、この母親がどうなったのかも伝えてほしかった。曲ができ、それを多くの人が聴く機会があることはすばらしいことだと思う。「穢（けが）れ」ということばは日常生活ではあまり使われないので、少年が「もうけがれています」と言っていることはショックを受けた。考えさせられる内容で、今後も関係者への取材を続けてほしい。

○　少年は、加害者であるが、被害者でもあると思う。番組を見ていると、少年は物事の見極めがきちんとできるが、置かれた環境により罪を犯してしまったのではないか。また、日本でも、いまだに居所不明児童がいることをとても切なく感じた。少年が出所するまでには時間がかかるが、今後も多角的に取り上げ、いろいろなメッセージを発信していってほしい。

○　非常に重い内容だったので、土曜日の朝よりも夜間帯に放送するほうが適切だと感じた。親による虐待や不登校の問題は日本全国にある問題だ。家庭環境、家族の健全なあり方が重要だと改めて感じさせてくれる番組だった。自分の祖父母を殺すよう母親から迫られる少年もかわいそうだが、その母親も子どものころから同じよ

うな厳しい環境で育ったのではないかと推測した。時間の制約もあり少年以外の人たちについての深掘りは難しかったのだろう。自分が犯してしまった大きな罪を悔やみながらも、自分の存在を認めてほしいという心の叫びは、人間の本質であり根源ということを感じさせる番組だった。

（ＮＨＫ側）

土曜日の朝に放送するには重い内容だとわれわれも思ったが、放送後にＳＮＳなども含め多くの反響をいただいた。視聴者の多い時間帯に放送できた意義もあったのではないかと思う。今後も取材を続け、社会に問題提起できる番組を制作していきたい。

○　服役中の少年とミュージシャンとの出会い、それらの出会いと交流から生まれた新しい歌は、いわば「生きることへのメッセージソング」のようなもので、新たな感動を人々に与え始めているというストーリーが短い時間の中で丁寧にまとめられた番組だった。「もう穢（けが）れています」のフレーズに衝撃を受けた人も多いのではないか。冒頭のシーンで流れていた「君が生きている意味はあるんだよ」のフレーズは平易ではあるが、心の底から絞り出された重さを感じた。この番組の中で考えさせられたのは、裁判長が問いかけたという「周りに大人がいたのに、誰か少年を助けられなかったのか」ということばだ。周りに干渉しない社会への、厳しい問いかけのように感じた。ＮＨＫには、この歌と少年のその後をドキュメンタリー番組として取り上げてもらいたい。

○　母親の指示で祖父母を殺害した１７歳の少年の過去は、あまりにも痛ましかった。「この世界で“生きてる意味なんてあるのかな”と思っているきみに届けた　かった」ということばは、痛みを負った少年ならではのもので、心を打たれた。獄中で綴られた少年の詩がノートにぎっしり書かれていたが、映像だからこそ伝えられるものだと思い、少年の体温を感じた。表現し、誰かとつながることで、一歩前に踏み出せる可能性を感じた。「生きている意味があるのか」と思わせてしまう社会にしてしまった、大人である自分自身にも突き刺さってくるような番組だった。

＜放送番組一般について＞

○　８月１５日(木)のＮＨＫスペシャル「全貌　二・二六事件～最高機密文書で迫る～」(総合 後 7:32～8:45)を見た。新たな資料が発見されたことに驚くとともに、

真実が明らかになった点は見ていて興味深かった。また、今回の資料が、どのような経緯で発見されたのかにも興味を持った。今回の資料は海軍側が記録したものだが、これまでの研究を補強するものだった。冷静に分単位で記述された資料を番組では時系列に追って、分かりやすく構成していたと思う。二・二六事件の１週間前に海軍は決起部隊の動きを知りながらも何ら手を打たなかったことも紹介していたが、最後にもう少し補強したナレーションかコメントがあると、より伝わったのではないかと思う。

○　戦争と平和はきちんと考えなければいけない問題だが、今夏は、価値のある番組が多かった。ＮＨＫスペシャル「全貌　二・二六事件」は番組に見入ってしまうほど、興味深い内容だった。新発見の資料をどのように入手し番組制作に至ったのか、経緯が知りたいと思った。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「全貌二・二六事件」は新しい資料に基づいて制作した。どのように入手し、どういう資料なのか、なぜそれがスクープと言えるのかということは可能な範囲で番組の中で説明している。さまざまな確認作業を経た上で放送している。

○　８月１７日(土)のＮＨＫスペシャル「昭和天皇は何を語ったのか～初公開・秘録“拝謁（はいえつ）記”～」を見た。意義深い番組だった。番組で紹介された拝謁記は、民間出身の田島道治初代宮内庁長官により、冷静に記述されたもので、史料的価値が非常に高い。新しい時代に向けた昭和天皇の考えについて、新事実を多く知ることができ、貴重な内容だった。関連した内容をニュースでも取り上げていたが、価値が高い内容だと思うので、今後も詳細な分析と研究を行い、数回にわたる特集が組めるのでないか。「ＮＨＫ　ＮＥＷＳ　ＷＥＢ」でも関連特集が組まれていて、より深く理解することができた。「全貌　二・二六事件～最高機密文書で迫る～」と「昭和天皇は何を語ったのか～初公開・秘録“拝謁（はいえつ）記”～」の二つの番組は新しい昭和天皇観、昭和史の真実を明らかにしており、大いに評価したい。

○　ＮＨＫスペシャル「全貌二・二六事件」はテレビから目が離せない内容だった。８３年前の出来事だが、真実が明らかになるにはこれだけの時間が必要なのかと考えさせられた。関係者が亡くなっていくなか、こうした資料は貴重だ。多くの人に見てほしいと思える番組だった。

○　ＮＨＫスペシャル「全貌　二・二六事件」は事件の全貌を伝えており、「ＮＨＫスペシャル」ならではのよい番組だった。

○　８月１８日(日)のＮＨＫスペシャル「戦争と“幻のオリンピック”アスリート　知られざる闘い」を見た。ゲストに元オリンピック選手の北島康介さんや長谷部誠さんなどが登場していたが番組を盛り上げるのに効果的でよい人選だったと思う。放送中に番組タイトルが左上に出続けていたが、背景と重なり見えづらいと思う時間帯がたびたびあり、気になった。視聴の妨げにならないような表示のしかたや色合いを検討してほしい。

○　９月１日(日)のＮＨＫスペシャル「巨大都市　大停電～“ブラックアウト”にどう備える～」を見た。放送後に、台風１５号による千葉県南部を中心に長期にわたる停電が発生し、さまざまなところで検証がなされていると推測する。市民からすると、なぜ対策本部がすぐにできなかったのかなど疑問が残る。どの地域で起きてもおかしくない問題だと思うので、しっかりと検証し、私たちの生活に役立つ情報を番組でも伝えてほしい。

○　「ひとモノガタリ」は重要なテーマを取り上げており、日頃から興味深く見ている。なかでも、８月１２日(月)の「曖昧な境界を生きて～“ハーフ”から見た日本のカタチ～」(総合 後6:05～6:34)は特によかった。何人かのハーフの方の悩みを取り上げる番組で、ハーフと呼ばれる人も増えているなか、多様な悩みがあることをよく伝えていた。ＮＨＫが取り上げたことは、意義深いと思う。

○　９月１８日(水)のクローズアップ現代＋「ルポ　外国人労働者の子どもたち～受け入れ拡大のかげで～」を見た。岐阜県可児市は年間8,000万円の独自予算で、日本語力が十分でない外国人の子どものために、小学校で日本語教室を展開している。日本で外国人が居住している地域のモデルになるようなよい取り組みの紹介だった。どの自治体でも、外国人との共生は重要な問題になってくるので、今後もこのような番組が放送されるとよいと思う。

○　７月２６日(金)から始まったＢＳ時代劇「螢草　菜々の剣」を７話すべて見た。清涼感のあるすばらしい時代劇だった。葉室麟さんならではの世界観を表現できた番組だった。

○　７月２０日(土)の土曜時代ドラマ「雲霧仁左衛門２」の最終回を見た。ドラマは、

池波正太郎の名作を十分に堪能させてくれたよい番組だった。

○　ドラマ１０「これは経費で落ちません！」を楽しく見ている。主役の多部未華子さんはとてもよい演技をしており、非常に素直で嫌みがない。個性的な俳優が多く出演しているなか、彼女の存在が雰囲気を和らげている。きちんとしたテーマなので非常におもしろく、引き込まれる。多部さんの魅力を再発見できる、好感の持てるドラマだと思う。

○　土曜ドラマ「サギデカ」を見ている。主人公の刑事の生い立ちも含め、今後の展開が楽しみな内容で、目が離せない。日本の高齢者の人のよさにつけ込む人たちがいるということが具体的に分かるドラマだ。

○　連続テレビ小説「なつぞら」は派手ではないが、多様な作品が生まれてきた日本のアニメの変遷を感じられるドラマだと思う。

○　８月は戦争と平和を考える番組を多数放送していたが、ＮＨＫの重要な使命の一つだと思うので、今後も継続してほしい。８月１０日(土)のＥＴＶ特集「忘れられた“ひろしま”～８万８千人が演じた“あの日”～」は、なかなか知ることのできなかった映画「ひろしま」について取り上げており、大変興味深い内容だった。

○　この数か月間、日韓関係が問題になっているが、関連したインターネット上のニュースやそれへの書き込みを見ていると、違和感を覚えることがある。日韓関係のニュースも含め、インターネット上で起きていることを冷静に分析し、深掘りした番組があってもよいのではないか。

○　日韓関係が冷え込む中、民間での交流が重要だということを積極的に伝えていってほしい。

（ＮＨＫ側）

日韓関係については、事実関係に誤りがないよう報道している。民間の交流については、各局の地域放送や全国放送でも取り上げていければと思う。

（ＮＨＫ側）

前回の審議会で、「永遠のニシパ紀行」の中で「“野帳”」の呼び方に関する質問を頂いた。松浦武四郎さんの子孫が代々

「のちょう」と呼んでおり、研究者の間でも「のちょう」という読み方が正しいという認識になっている。

○　８月は、戦争特集など意欲的な取り組みや、見逃せない作品が数多くあった。８月５日（月）のＢＳ１スペシャル「ヒロシマの画家　四國五郎が伝える戦争の記憶」や８月１７日（土）の映画「ひろしま」（Ｅテレ 前 0:00～1:47)は、ずっと保存したい貴重な内容だった。映画「ひろしま」は原爆から８年後に制作され、実際の被爆者の方も多数出演されており、原爆被害の実相が、真に迫って伝わってきた。事前にＮＨＫスペシャルで、出演協力された市民の証言も紹介しており、それも効果的だったように思う。

○　８月１８日（日）のＢＳ１スペシャル「隠された“戦争協力”　朝鮮戦争と日本人」も貴重な証言だった。昭和天皇の発言をまとめた８月１７日（土）のＮＨＫスペシャル「昭和天皇は何を語ったのか～初公開・秘録“拝謁（はいえつ）記”」については、ＥＴＶ特集でも取り上げ、「三鷹事件」のことも放送していた。市民のひとりひとりが、「これからどうするべきか」を考えるためには、真実を知ることは何より重要だと思う。その意味でも、９月１４日（土）のＥＴＶ特集「“中間貯蔵施設”に消えるふるさと～福島　原発の町で何が～」は、よくぞ取材、放送したという内容だった。これまで、福島県の原発の恩恵を受けて来た関東に住む人間として、ひと事で済まされる問題ではないことを、痛感した。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年７月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、１９日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、９人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、首都圏情報　ネタドリ！「“小商い”がセカイを変える」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、８月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　　原　　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　　員　　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
野老真理子（大里綜合管理(株)代表取締役）
宮田麻一美（万座温泉日進舘女将）

（主な発言）

＜首都圏情報　ネタドリ！「“小商い”がセカイを変える」
（総合　５月１０日(金)放送）について＞

○　とても興味深く見た。特に「ママさん小商い」が印象的だった。子育て中の母親の声として多いのが仕事復帰に関する悩みだと思う。仕事に復帰したくても企業に就職するまでの自信が持てない、子育てに少し慣れてきても子どもを優先せざるを得ず時間が読めないなど、母親たちにはさまざまな悩みがある。今回の番組を見て、「ママさん小商い」が母親たちの悩みをすべて解決してくれるのではないかとさえ思った。これまでのスキルを生かして、低コストで、自分のペースで商いができることなど、さまざまな利点があり、子育て中で仕事復帰に不安を抱えた母親たちには希望の持てる内容だった。埼玉県草加市が小さな子どもがいる母親の多くが仕事

をしていない現状に注目し、女性向け起業講座を主催していることもすばらしいと思った。また、小商いを通して自信を取り戻せた女性のエピソードは、自分の存在価値に悩む母親たちの希望にもなると感じた。

○　最初に紹介された千葉県いすみ地域の事例は「同じような波長を持った人が集まり、人びととつながる場ができてよい」とイベント参加者が話していたが、いまひとつ納得できなかった。埼玉県草加市が主催した女性向け起業講座をきっかけに「ママさん小商い」が続々誕生している事例については、最初はなぜ行政がバックアップするのかよく分からなかったが、「小商いで目覚めたママの力が地域を元気にする」という説明でようやく分かった。後半の「ＳＮＳが育てる小商い」についても、逗子の里山の小商いや、参加型の家づくりの事例、さらにＳＮＳを通じた小商いのコラボレーションが出来つつあることが紹介され、今回のテーマに沿っていて好感が持てた。自分が楽しくなければ活動の輪が広がっていかないので、身の丈に合った範囲で好きなことを仕事にするという彼らのコンセプトはよかった。しかし、番組の内容が個人に焦点を当てすぎていたので、仲間とのつながりの部分をもう少し丁寧に説明すべきだったのでないか。地域にどういった影響があるのか、どのように暮らしやすくなるのかといった部分の掘り下げが不足していると感じた。タイトルの「セカイ」をどういう意図でカタカナにしたのか教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

自分の身近な世界という意味であえてカタカナの「セカイ」とした。

○　「“小商い”がセカイを変える」というタイトルが最初大げさに感じられたが、全体を通して見るとタイトルのとおりかもしれないと思った。小商いは、東京に比べれば家賃が安く、自然が残っている神奈川県、埼玉県、千葉県で多く展開されていること、ＳＮＳで気軽に情報共有されていること、参加者同士がつながりを作り、コラボレーションした新しい小商いができていることなどが分かり、学ぶことが多い番組だった。人口減少が大きな課題の一つでもある日本で、１人の人がいくつかの役割を持つことで、個人の能力を社会に還元していくためにも小商いが大事なものだと改めて思った。草加市の起業講座の事例が紹介されたが、行政の取り組みは長続きしない印象があるものの、まずはやってみることが大切だと思った。一方、番組でも取り上げられていたが、小さなビジネスだけでは生計が成り立たないこと、本業の仕事とのバランスをもう少し丁寧に伝えると一面的に理解されずにすむのではないかと思った。

○　案内役のハリー杉山さん、小商いハカセの伊藤洋志さんが番組をうまくまとめていると感じた。１人の人が複数の役割を持っていたほうが社会がより力を発揮する可能性があるということや、利益よりも自分がやりたいことを大切にして兼業している人たちのことが、番組を見た人によく伝わったのではないか。元ケーキ職人の女性が、自分で作ったケーキを売っていたが、食品を取り扱う際の社会的な義務を考えると番組の中で食品表示や食品衛生法のことなどにも触れたほうがよかったと思った。全体としては、時代に合った内容で楽しめた。

（ＮＨＫ側）

店を出している方が食品衛生法を守っていることは取材で確認している。食品表示については運営関係者の中で議論になっている点でもあり、今後番組で取り上げる際には配慮していきたい。

○　番組が４つの話題から構成されており、大変見やすかった。案内役のハリー杉山さんが自然体で好感が持てた。小商いハカセの伊藤さんは、自身も数々の小商いをしてきたということもあり、説得力があった。自分の特技を生かし、お互いに協力することで、地域を元気にすることが出来れば、自分の存在価値みたいなものが認められるのかと番組を見て思った。都心から移住して小商いを始め、収入が減っても自分のやりたいことができると話す男性や、同じような思いを持つ人たちとつながれることが幸せだと話す男性が紹介されたが、小商いをすることのデメリットも紹介したほうがよかったのではないか。ただ、取り上げた人たちがとても穏やかなよい表情をされており、どう働くかは、どう暮らすか、どう生きるかにもつながるとても大事な問題だと改めて思った。

○　「アラウンド東京」という神奈川県、埼玉県、千葉県の地域的な要素だけでなく、自己実現したいと思っている人が何と多いのかという感想を持った。逆にいえば、現在の社会、仕事、職場環境の中で満足している人が少なく、さまざまなことに生きがいを感じている人が増えているのだと思った。そのような人たちが新しい商売に挑む際にＳＮＳの普及、空き家の増加などが追い風になっているという現実を理解することができる番組だった。ハリー杉山さんは、熱心にリポートしていて好感が持てた。小商いハカセの伊藤さんもよかった。番組の構成がよく、視聴者を引きつけるものだったが、２７分の中にかなりの情報が詰め込まれており、一度見ただけではすべてを理解できなかった。また、常に番組のサブタイトルが画面左上に表示されていたが、一部映像の中のホームページの文字が隠れて見にくかったので、映像によっては表示しない配慮も必要だったと思う。先ほど番組タイトルの「セカ

イ」がどういった意味なのかという話が出たが、番組を何回か見て、ワールド、グローバルの世界でなく、自分の世界、身近な世界、日常の世界という意味で「セカイ」と表現したのだと感じた。「首都圏情報　ネタドリ！」はただ情報を提供するだけでなく、視聴者に訴えかけて行動を促すような番組ではないかと思う。そのような番組づくりを今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

今後、テロップの表示についてはいただいた意見を参考にしていきたい。

○　「“小商い”がセカイを変える」というタイトルはかなり挑戦的だと思った。いろいろな事例を通して、どのような新しい世界ができるのだろうかと興味深く見た。小商いとひとことで言っても、お小遣い稼ぎのように３万円、５万円の利益を出す人もいれば、１０万円、２０万円の利益を出す人もいると思う。いずれにしても自分の好きな仕事をし、等身大で生きることに対し、特に年配の人の中には疑問を持つ人もいるのでないかと思う。等身大に生きるということの発信はこれからの時代に合っていると思うが、小商いと、社会に影響を与えるような“大商い”の間を埋めるものが必要なのではないか。間を埋めるものが何なのかが見えてくると「セカイを変える」というコンセプトがもう少し視聴者にも伝わったのではないかと思った。

○　自分の得意分野を生かし、地域にも貢献して、人との交流も深まっている事例を元々知っていたが、男女どちらの小商いも紹介されていてよかったと思う。あまり大きく取り上げられなかったが、小商いをサポートする自治体や団体がかなりあると思うので、番組を見て自分もやりたいと思った人が相談できる連絡先を紹介するとなおよかったのではないか。多様な働き方や生き方のヒントを教えてもらえるような番組だったと思う。また、東京の周辺地域が手を取り合って、暮らしやすいところを作るという意味で「アラウンド東京」ということばを用いたのは番組のテーマに合っていてよかったと思う。

○　取り上げられた人たちは、やりがいや自分の存在価値のために、趣味の延長線で小商いをとても楽しんでおり、利益がたくさん出なくても満足している様子がよく伝わり、興味深かった。草加市が支援している「ママさん小商い」の話題はもう少し掘り下げて伝えればなおよかったと思った。草加市のような行政の支援に特化した番組も制作できると思うのでぜひ検討してほしい。

（ＮＨＫ側）

今回は「おはよう首都圏」で取り上げた４つの話題を再構成して１つの番組にしたが、話題ごとに強弱をつけるやり方もあったかもしれない。草加市の取り組みは反響が大変大きく、主婦層も含め、かなり多くの方が関心を持っていることがわかった。いただいた意見は今後の番組制作にいかしていきたい。

＜放送番組一般について＞

○　６月３０日(日)のＮＨＫスペシャル「誰があなたの命を守るのか“温暖化型豪雨”の衝撃」を見た。近年災害が多い中で、行政だけに委ねていては自分の身を守れないので、自分の事として防災について考えようという内容だった。一方で、「“温暖化型豪雨”の衝撃」というタイトルは、環境問題を連想させるので、生死を分ける防災を考えるという内容が伝わりづらかったのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

当初は西日本豪雨１年の検証ということで番組を制作していたが、気象庁が西日本豪雨は温暖化の影響であると初めて認めたことや、九州で豪雨が発生するなど、まさに今迫り来る問題だと伝わるように“温暖化型豪雨”というタイトルにした。いただいた意見は制作現場でも共有し、今後の番組制作に生かしたい。

○　７月７日(日)のＮＨＫスペシャル　恐竜超世界　第１集「見えてきた！ホントの恐竜」と７月１４日(日)のＮＨＫスペシャル　恐竜超世界　第２集「史上最強！海のモンスター」を見た。第１集は、最新の研究結果を踏まえ、羽毛恐竜の生態に迫る内容で感心しながら見た。寒冷地でも暮らせること、鳥のように抱卵し、子育てをすること、虫をルアーのようにおとりにし、魚を捕ることなどが分かり驚いた。実際の研究成果と科学者の想像しているところがうまく融合してドラマチックにＣＧで表現されていたが、一方でどこまでが事実で、どこからが仮説なのか、やや分かりにくいところもあった。第２集は海竜について、日常の営みから生態を描き出しているところに興味を引かれた。最新の研究結果を踏まえ、恐竜の生態をＣＧなどで見せるだけではなく、最後にシンシナティ大学の小西卓哉博士の「食物連鎖の頂点にいたモササウルスでさえ、生態系がガラリと変わると消えた。現在、非常

に繁栄しているわれわれ人類にこれからどういう道が待っているのかという問いにも、答えを提示してくれるのかなと思う」というコメントを取り上げていたが、その内容は非常に考えさせられるものがある。単に恐竜の生態を探るだけではなく、最後に現代社会に生きる私たちへ問いかける制作者の思いが伝わる番組だった。

○　ＮＨＫスペシャル「恐竜超世界」を見た。子どもたちが見てもとても興味を持つ内容だったと思う。この番組を見て研究者になりたいと思う子どもも出てくるのではないかと思った。大変すばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「恐竜超世界」はＣＧに力を入れて制作した。通常は科学者が研究成果を説明した上でそれを映像化することが多いが、今回は発想を変えて最新の研究成果に基づいた部分と科学者の想像を若干取り入れて、科学的な裏づけを示しながらＣＧで分かりやすく映像化した。どこまで科学的根拠があり、どこからが想像なのか、番組上分かりにくい部分があったかもしれないが、基本的には科学的根拠に基づいている。例えば第１集のデイノケイルスについて、羽毛があったことは分かるが羽毛が何のためにあったのかその目的は分からない。しかし多くの研究者は求愛活動に生かしていただろうと考えている。その科学者の想像の部分を含めて妥当と考えられる世界をＣＧ化した。詳細についてはホームページ等で補足的に分かるようにしている。

○　７月１３日(土)のＮＨＫスペシャル「夢をつかみにきたけれど　ルポ・外国人労働者１５０万人の時代」を見た。改正入管法が 2019 年４月に施行され、さまざまな問題点が指摘されているが、その１つの実態を伝える、とても意味深い番組だったと思う。外国人労働者の実態がいくつか紹介され、何とひどいことをするのだろうという気持ちになったが、唯一救いのように感じたこともあった。法の順守を徹底していたにも関わらず、受け入れた外国人労働者が突然死した、盛岡の会社社長が遺骨を持ってベトナムの家族に会いにいき、慰霊のことばを届けて、子どもたちにお土産も持っていった様子が取り上げられていた。外国人労働者にひどい仕打ちをする人もいれば、きちんと寄り添う人もいると分かったことはよかった。ベトナム人の僧侶が「日本の便利な社会やサービスの裏側にはベトナム人を含む外国人労働者の犠牲がある。しかし、その犠牲に光が当たることはない」、「私たちはみな誰かとつながっている」、「社会を維持するために協力する必要がある」ということば

が心に残った。全体的にとてもよい作りだったと思う。ただ、ナレーションや音楽などでより重く感じさせる演出になっていたが、そこまでしなくても十分に問題提起が出来る内容だったと思う。

（ＮＨＫ側）

番組では亡くなったベトナム人労働者のケースを追いながら普段はなかなか知ることのない外国人労働者の実態を伝えようした。事実をしっかり伝えることが大切なので、その原点を忘れずに、ナレーション、音楽などの在り方を考えるように制作現場にも伝える。

○　６月２４日(月)のノーナレ「画面の向こうから―」(総合 後 10:50～11:20)を見た。今回初めてこの番組を見たが、驚くような展開に引きずり込まれた。愛媛県の縫製工場で働くベトナム人技能実習生の過酷な状況をナレーションなしで追いかけたドキュメンタリーだった。ナレーションがないことでより緊迫した状況が伝わってきた。技能実習生たちが、婦人・子ども服の製造で採用されたにも関わらずタオルを作っており、劣悪な労働環境で長時間労働を強いられていたことに衝撃を受けた。日本の労働者であれば行政が強い是正勧告をし、場合によっては社長が逮捕されてもおかしくないような状況であるにも関わらず、外国人技能実習機構が何回も現場を調査しても事態があまり変わらないことには疑問を感じた。日本の製造業がどこに向かっていけばよいのか、外国人技能実習生にどういった環境を提供すればよいのか、もっと考えなければいけないと感じた。

（ＮＨＫ側）

取材した内容をナレーションで説明してしまうと、現場の迫力が逆に削がれてしまうのではないか、という発想からナレーションを入れずに、現場の映像だけで勝負する番組として始まったのが「ノーナレ」だ。今回の内容は「バリバラ」で最初に取り上げ、その後も技能実習生たちとやりとりを続けて長期的に取材した。技能実習生の問題、ひいては日本の製造業をこれからどう持続可能にしていくのか、などについては大きなテーマだと考えており、今後も引き続き取り上げていきたい。

○　７月１５日(月)の「永遠のニシパ紀行」(総合 後 8:51～8:53)で武四郎ゆかりの品々が紹介される場面で、「野帳（のちょう）と呼ばれる旅のメモ書き」というナ

レーションが入っていた。普通は「野帳（やちょう）」と言うと思うが、武四郎のものは「野帳（のちょう）」と言うのか伺いたい。

（ＮＨＫ側）　「永遠のニシパ　北海道と名付けた男　松浦武四郎」は札幌放送局が作ったドラマなので、確認して次回お答えする。

○　６月３０日(日)のやまと尼寺　精進日記「水無月（みなづき）　青葉風吹く　お茶日和」を見た。住職と副住職、お手伝いの女性３人の食生活が番組で紹介され、お寺の周りで取れた作物を丁寧に調理して食べる様子を毎回感心して見ている。３人の飾り気のない、何気ない日常を通して、簡単に食べ物を手に入れ、３分で食べ終えることができる現代において、食べ物に感謝する気持ちなど、大切なことが学べると思う。茶がゆを作るためにお茶の葉を摘んで、葉をいるところから始める様子を見て、食べ物と謙虚に向き合うことで、暮らしが豊かになるのではないかと思った。ナレーションやＢＧＭも番組の雰囲気に合っていてすばらしかった。

○　７月１日(月)から始まった１００分ｄｅ名著「小松左京スペシャル」を見た。さまざまなことが分かり大変勉強になった。特に評論家の宮崎哲弥さんの解説、ＳＦ論がとてもよかった。作品紹介のための朗読とイラストが合っていて作品を理解するのに役立った。今後も継続してほしい番組だ。

○　７月５日(金)のドキュランドへようこそ「イツァーク～天才バイオリニストの歩み～」を見た。イツァーク・パールマンが世界的なバイオリン奏者として成長するまでの日々をプライベートにも密着して伝えており、すばらしい内容だった。パールマンは脚が全く動かせないため、大リーグの開幕戦で車いすに座って国歌を演奏していた。その映像を見て初めてパールマンがポリオにかかっていたことを知り、ポリオを撲滅させなければいけないという気持ちにもなった。当時のテレビ番組でパールマンが演奏している様子が紹介されたがすばらしかった。「バイオリニストの王」と称されたヤッシャ・ハイフェッツ、アイザック・スターンなどの名バイオリニストの演奏や、ビリー・ジョエルとの練習風景、ストラディバリウスの音の秘密について修理工房を訪ね、バイオリン職人と話をする場面などが紹介され、クラシックファン、特にバイオリンのファンとしては普段見ることのできない場面ばかりで、大変見応えがあった。

○　６月３０日(日)からスタートしたプレミアムドラマ「ベビーシッター・ギン！」を見た。主人公のベビーシッターが育児に悩む母親を助けるだけでなく、さまざまな家庭の問題も解決するというストーリーだった。漫画原作のドラマ化なので、現

実離れしているところもあるとは思うが、いずれのストーリーも日本の現代家庭の状況をよく表現しながら、重くならず描かれていてよいと思う。今後も注目して見続けたいドラマだ。

○　７月１８日(木)の偉人たちの健康診断「ペリー来航　酒と痛風の日米交渉」を見た。宴会が交渉にどのような影響を及ぼすのかを科学的に説明し、歴史をひもといていて楽しめた。現代でも交渉を有利に進めるために接待が行われているが、アメリカで検証した実験によって、おいしい食事をすると７割近い人が自分の意見を変えるということが紹介されたことも大変興味深かった。意志の決定は脳の前頭前野で理性的な評価を行い、同時に辺縁系で感情的な評価をして総合的になされるが、宴会やもてなしが脳の辺縁系に作用する結果、相手が意見を変えやすいという説明を聞いて納得できた。そのことが日本の開港に影響し、歴史をも動かしたと考えると大変おもしろかった。ペリーが日本や日本人を深く研究し、日米両国の歴史を作った立役者であったこと、「日本人が西洋文化の知識を身につければ将来アメリカの強力なライバルになるだろう」と言ったことなどが分かり、ペリーがいたからこそ、今の日米関係があるのだと感じた。ペリーが日本の女性を、ほかの東洋の国では見られない活発さや自主性を持っていると評価していたことは意外だった。これまでの歴史番組とはひと味違い、健康面から歴史を切り取っている番組で、１時間飽きずに興味を持って見ることができた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫには歴史番組がたくさんあるが、「偉人たちの健康診断」は科学的な根拠に基づいた健康を切り口にし、新しい視点で歴史を見ようというコンセプトで作っている番組だ。いただいた意見は制作担当者に伝える。

○　７月１日(月)の「ＮＨＫジャーナル」を聴いた。朝刊のラジオ欄で「神社でテクノ」という内容を目にしたので、夏越の大祓の翌日ということもあり興味を引かれた。テクノミュージックとデジタル神事で祝詞を奏上するというある神社のおもしろい取り組みを取材しており、時代の変化を感じさせる番組としてとてもよかった。短い時間の中で、神社の模様を的確な表現で伝えており、臨場感のあるリポートに感心した。

○　７月５日(金)の回で、「ミニ・ビブリオバトル」のテーマは「冒険」だった。４月の審議会でスタジオのキャスターの絡みが少なく、淡泊なバトルでおもしろみに欠けると意見を述べたが、徐々に改善されていてよかった。わずか３分のプレゼン対決が

とても魅力的で翌日両方の本を買ってしまうほどおもしろかった。今後も期待している。

○　京都のアニメ制作会社の放火事件についての報道を見て、大変心を痛めている。こうした事件の根底には人と人とのつながりが希薄になっていることが関係しているのではないかと感じている。「ストップ詐欺被害！私はだまされない」のコーナーで継続して視聴者に注意喚起しているように、人と人とのつながりについてもきちんとテーマとして取り上げてもよいのでないかと思った。

○　女性が集まると、仕事と子育ての両立が大変だという話になる。彼女たちに子どもを育てながら自分の時間をどう作っているのかと質問すると「午後４時になるとＥテレをつけ、子どもをテレビの前に安心して座らせておくことができる」という意見が多くて驚いた。ＮＨＫは母親たちにとても頼りにされているのだと改めて感じた。

（ＮＨＫ側）

いただいた信頼に応えられるような番組作りに引き続き努めたい。ＮＨＫは幼児・小学生向けの番組動画を視聴できる「ＮＨＫキッズ」というアプリを始めた。スマートフォンにアプリをダウンロードすればどこでも動画が見られる。ぜひご利用いただき、意見を聞かせていただければと思う。

（ＮＨＫ側）

先月の審議会でご質問いただいた、ＮＨＫスペシャル「運慶と快慶　新発見！幻の傑作」について回答させていただく。新発見の快慶仏として紹介していたものがすでに発見されたものではないかという指摘については、2017 年の展覧会の図録ですでに紹介されていることは把握していたが、近年の研究成果として紹介したもので、ナレーションも注意したつもりだ。正確に言うと快慶作の可能性が高いと指摘されていた作品をＸ線で調査し、確定的な手がかりをつかんだということだ。また、東大寺南大門の仁王像の解体修復を記録した映像で民放テレビ局から提供されたものを使っていたのはなぜかという質問についてだが、ＮＨＫも取材をしていたが、当時密着取材をしていた民放テレビ局から提供を受けた。そうした歴史的な瞬間を収めた映像は権利上の問題がない限り、

テレビ局間で相互に使用許諾を出す。そのことが相互の番組の映像の豊かさを支えているとご理解いただきたい。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年６月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、２１日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、長野放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、ＥＴＶ特集「彼らは再び村を追われた　知られざる満蒙開拓団の戦後史」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、７月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　原　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　員　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
野老真理子（大里綜合管理(株)代表取締役）
仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）
宮田麻一美（万座温泉日進舘女将）

（主な発言）

＜ＥＴＶ特集「彼らは再び村を追われた　知られざる満蒙開拓団の戦後史」
（Ｅテレ　３月２３日(土)放送）について＞

○　戦後開拓について全く知らなかったが、その実態を深く知ることができた。この番組はＮＨＫだからこそ出来たのだと思った。開拓者の栗城昱さんが「３回の国策の失敗によって生活が振り回された。７０年間の人生は徒労に終わった」と語っていたのが重く心に残った。日本が豊かになった今を生きる人の中に、想像を絶するような過酷な状況で生き抜いて来た人たちがいることを知って、見終わったときにことばがなかった。開拓者の方たちの苦労があったからこそ、今の生活があると思うと、感謝の気持ちしかない。

○　満蒙開拓団について、終戦間際のソビエト軍の侵攻から引き揚げまでの苦労話はよく取り上げられるが、帰国後の移住入植については知らなかった。最初に故郷を離れ満州に渡る際の経緯についてはもう少し丁寧に扱ってもよかったのでないか。そのほうが、帰国後に故郷を追われて離れた土地に入植せざるを得なかった開拓者たちの苦悩がより浮き彫りになったと思う。長野県庁に県内の開拓地の場所を調査した地図台帳が残っていて驚いたが、さらに番組の中で詳しく分析していたことには感心した。満蒙開拓青少年義勇軍も戦後帰国しているはずなので、そういった関係も合わせて取り上げるとなおよかった。全体としては、昭和恐慌期から始まった満蒙開拓団の戦後史をつづった労作だったと思う。

○　時代に翻弄される元満蒙開拓団の人たちのやり場のない気持ちを感じずにはいられなかった。鹿島臨海工業地帯、成田国際空港、福島県の浜通り地方などが、かつて引き揚げ者が入植した開拓地だったということも初めて分かり、改めて戦後の歴史をよく知ることができた。そうした中で２点感じたことがある。一橋大学の森武麿名誉教授が「農業から工業に変わり、サービス産業に変わっていく産業構造の転換に対応できないところが戦後開拓地で、社会的に一番ぜい弱な部分に社会矛盾が集約的に現れる」という話をしていた。社会が変わる中で、変化についていけない弱者にも手を差しのべ、弱者を作らない社会が大切なのだということを感じた。また、ＮＨＫが過去の番組や映像を使って歴史をもう一度たどり、今を生きる私たちに忘れられそうな歴史を伝えることは、公共放送として大事な役割ではないかと改めて感じた。

○　満蒙開拓団として１２歳で満州に渡った岩間政金さんが、帰国後も故郷で冷遇され、福島県葛尾村で苦労して開拓した土地も８年前の原発事故で避難を余儀なくされ、避難指示解除後も集落にたった１人で暮らしている話を聞いて胸が詰まる思いだった。苦難を強いられた人生を淡々と語る岩間さんの姿が印象的だった。６０年代以降、原発をはじめとする原子力関連施設が各地に作られたが、その半数以上が、開拓地やその半径５キロ以内に立地していることはこれまで全く知らなかった。そこで生きる人たちの苦労を思うと、改めて政府が進めていることをうのみにせず、一人一人が自ら考え行動することが大切だと思った。番組の中で、岩間さんが満州で家族と離ればなれになり、やっとの思いで母親に会えたと語ったときの表情や長野県から福島県葛尾村に移住した際に母親が持ってきたワサビが現在も育っている映像から、今もなお母親を慕う気持ちが感じられ、少しだけ救われた思いがした。

○　良質な番組の見本のようだった。情報公開請求した資料や何人もの開拓者や専門

家への取材から当時の状況を分析しており、大変な労力をかけて作られた番組だと感じた。番組冒頭のナレーションで「古来、日本人は開拓によって大地を切り開いてきた」と言っているところは印象的だった。俳優の松重豊さんと柴田祐規子アナウンサーの語りは落ち着いており、すばらしかった。ただ、元農林省開拓局長のコメントはほかの場面と同じように淡々と松重さんがナレーションをしてもよかったのでないかと感じた。引き揚げ者寮について岩間さんが当時の状況を証言しているところでは、どれほど窮屈な所に押し込まれていたのかということを実感した。元農地局長が行政側の立場でコメントしていたが、言い訳めいた話にとどまっており、もう少し深いコメントを引き出せればよかったと思う。最後のほうで福島県内のほかの地域から浜通り地方に入植した栗城さんの「７０年間の人生は徒労に終わった」というコメントが痛切に響いた。

○　現在の筑波研究学園都市、成田国際空港、原発をはじめとする原子力関連施設のある地域は、満蒙開拓団の方々の大きな犠牲の上で成り立っているものなのだと番組を見て初めて知った。満蒙開拓団の人々がやっと帰国しても故郷で冷遇され、厳しい土地を開墾していった姿を見て涙が出た。こういった当時の映像が残っているのもＮＨＫならではだと思った。すべてを淡々と語っていた岩間さんが、母親の話をしたときにだけ涙を流していたのが印象的だった。誰にとっても母親は特別な存在なのだと強く感じた。日本人がきちんと知っておかなければならない事実を内部文書や開拓者の証言を元にきちんと作られた貴重な番組だと思った。

○　戦後開拓のことはほとんど知らなかったので、興味深く番組を見た。岩間さんの証言を軸にすることで、より現実に起きたこととして実感できた。座談会「戦後開拓史」に「最大の罪は、金をうんと使ったということだろう。（爆笑）」と書いてあり、その事実にあぜんとし、どこか今につながるものを感じた。長野県はそばがおいしい地域だと単純に思っていたが、厳しい土地で米や麦が育たず、仕方がなく育てた雑穀だったことを初めて知った。岩間さんが長野を出たときに母親が持っていたワサビを今でも大事に育てている映像があった。また、避難指示後に殺処分したウシの「牛魂碑」があり、ワサビ畑のそばに「水神」を祭る碑もあった。番組では触れていなかったが、どちらも岩間さんの名前が映り込んでおり、国策に翻弄されてもなお、岩間さんが地道に生きてきた様子が想像できて感動した。森名誉教授の「社会的に一番ぜい弱な部分に社会矛盾が集約的に現れる」というコメントはそのまま福島県の原発事故の問題、沖縄県の基地問題にもつながるのではないかと思った。経済的な繁栄の影で何が起こっていたのか、今も起こっているのか、考え続けなければいけないと思った。

○　情報公開請求した資料と史実、また、いろいろな地域で生活する満蒙開拓団の方のインタビューを、１つ１つ丁寧につなぎ合わせて説得力のある１本の番組にまとめたのはすばらしいと思った。満蒙開拓団の人たちが国策や原発事故でいかに翻弄されてきたのかが、インタビューなどから率直に伝わってきた。大勢の満蒙開拓団の方のコメントも少しずつ効果的に入っており、大変深い番組になっていた。

○　岩間さんが感情をあらわにせず淡々と語っており、実直な生き方が伝わってくるような番組だった。満蒙開拓団と戦後の開拓が結びついていなかったが、番組を見てよくわかった。八郎潟開拓、石油コンビナートなど、政府が集中的に補助金を出して成功を収める開拓地があった一方で、大規模化できずに取り残される開拓地もあったことに初めて気付かされた。昔の話ではなく、今につながっていると私たちは認識しなければいけないと思う。当時のことを証言してくれる方が高齢化して減っていく中で、今回のように当事者の証言を集め、独自で分析し、戦後史を掘り下げる番組は大変貴重なものだと感じた。

○　全体としては重い内容の番組だった。開拓者の方々に上皇様と上皇后様が天皇・皇后であった時代から寄り添ってこられたので、退位される前のタイミングで伝えられたことは意義があったと思う。６０年代以降、原発をはじめとする原子力関連施設が各地に作られたが、その半数以上が、開拓地やその半径５キロ以内に立地していることはこれまで全く知らなかったので大変驚いた。その事実を追究し、報道したことはよかった。戦後開拓地の一つ、六ヶ所村を視察した電力会社幹部のことばはひどいものだった。また、座談会「戦後開拓史」で元農林事務次官が語った「最大の罪は、金をうんと使ったということだろう。（爆笑）」という場面は開拓者をいかに見下していたかが分かった。こういったことを知らせることも大切だと思う。番組の最後で栗城さんが「３回の国策の失敗によって生活が振り回された。７０年間の人生は徒労に終わった」と言っていたことが印象的だった。以前、上皇ご夫妻が満蒙開拓平和記念館や軽井沢の開拓村を訪問されたエピソードを番組で紹介してもよかったかのではないか。

（ＮＨＫ側）

番組の中でもたくさんの証言を取り上げたが、実際にはもっといろいろな地域へ取材に行っている。北海道では元開拓村が放射線廃棄物の最終処分場の候補地になっており、こうした事例は各地に埋もれているのではないかと思っている。頂いた指摘も踏まえ、戦後開拓については長野県内のことも含めて今後も引き続き取材していきたい。

＜放送番組一般について＞

○　６月２日(日)のＮＨＫスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」を見た。自分らしく生き、尊厳を守るために、安楽死を選んだ女性の思いとその選択に寄り添った姉妹の思いや最後まで反対しつづけた妹の思い、それぞれからいろいろなことを考えさせられた。どのような生き方が本当に幸せなのかを問いかけられたと思う。よくここまで取材ができたと感心した。一方、同じ神経難病を患いながらも延命措置を選んだ女性とその家族も取り上げていたが、今回は安楽死を選んだ女性とその家族の話だけで十分だったのではないかという思いが残った。

○　ＮＨＫスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」を見た。難病を患った女性が、自分の死を選択することは、どう生きるかを選択することと同じくらい大事だとの思いから、安楽死を選ぶという番組だった。数分で死に至る点滴のスイッチをみずから入れて、姉たちにお礼を言いながら彼女が亡くなる瞬間までをとらえており、とても衝撃的なドキュメンタリーだった。日本でタブー視されていた死の在り方を巡る議論が深まれば、との思いで取材に応じた女性の思いをしっかり受け止めたいと思った。一方、同じ神経難病を患いながらも延命措置を選んだ女性が、家族との何気ない会話が幸せだと伝える対照的な場面に、どちらの選択がよいか悪いかという短絡的な見方ではなく、タブー視されてきた死の在り方について改めて考えるきっかけとなる番組だった。１人の女性の死を真正面から捉え、大変重いテーマを視聴者に突きつけたと思う。

○　ＮＨＫスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」を見た。安楽死を選んだ女性とその家族に密着し、残された家族の気持ちまで取り上げるというすさまじい内容で大きな衝撃を受けた。「私たちは命の終わりをどう迎えるのか。大切な人をどう見送るのか」と最後にテロップが流れたが、それこそが番組が伝えたかったことで、視聴者への問題提起だと感じた。番組では安楽死を選んだ女性、同じ難病を患いながらも延命措置を選んだ女性、どちらも取り上げていた。医療技術、延命技術がどんどん進歩し、命は何よりも大切であるという日本の医療の土壌もあり、その中で納得のいく最期をどう迎えるのかということに対する問題提起だろうと思った。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「彼女は安楽死を選んだ」については制作段階でもいろいろな議論があった。安楽死を選んだ女性の

生き方や選択を推奨したいわけではなく、彼女がその決断に至るまでのさまざまな思いや家族の葛藤も含めていろいろなことを提示し、視聴者には自分に引き寄せて考えてほしいとの思いで番組を制作した。同時に、延命措置を選択した女性の生き方や家族の思いも伝えることで、より深く考えていただけると思った。

○　５月２６日(日)のＮＨＫスペシャル「運慶と快慶　新発見！幻の傑作」を見た。新発見の作品が出るということで期待していたが、全体的に残念な内容だった。運慶と快慶がたもとを分かつ再現ドラマでは、運慶は力強い四天王像、快慶は穏やかな阿弥陀如来像、とそれぞれ対比したように描かれている印象だった。しかし、仏像は注文によって制作されるものなので、やや印象づけしすぎているのではないかという気がした。新発見の快慶仏として紹介された阿弥陀如来像については、数年前に展示こそされていないが、ある展覧会の図録の中でも紹介されていたので疑問に思った。東大寺南大門の仁王像の解体修復を記録した貴重な映像が民放テレビ局から提供されたものだったが、ＮＨＫでは映像を持っていないのかと思った。運慶、快慶それぞれについて１本ずつ番組を作ってもよかったのではないかと思うほど、もっと深掘りできる内容ではなかったかと思う。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「運慶と快慶　新発見！幻の傑作」について、指摘された点は、現場に伝える。民放テレビ局提供の映像を使用した経緯については確認して次回報告する。

○　６月９日(日)のＮＨＫスペシャル「天安門事件　運命を決めた５０日」を見た。番組を見て初めて知る事実が多く驚いた。多方面にわたって取材しており、まさにＮＨＫならではの見応えのある番組だった。当時アメリカのブッシュ大統領が中国の指導者である鄧小平に「先進国首脳会議の共同宣言の草案に中国を過度に非難する文言があったが、アメリカと日本が取り除いた」と書簡で伝えていたということも衝撃的だった。戦後７４年、天安門事件から３０年、日本の外交はずっと変わっていないのだと改めて感じた。

○　６月１６日(日)のＮＨＫスペシャル「モネ　睡蓮（すいれん）～よみがえる“奇跡の一枚”～」を見た。国立西洋美術館で始まったモネの作品の復元作業に密着した番組だった。修復を終えた絵の部分の色使い、モネの作品データなどをＡＩに学習させてもＡＩだけでは複雑なモネの技法すべてを再現できないことがよく分

かった。ＡＩによって色使いは満足のいくものがほぼ復元できたようだが、筆のタッチを再現するには人間の手が必要で、両方が協力し復元する工程が大変おもしろかった。モネの作品へのこだわりのレベルが高いことを伝えると同時に、人がＡＩをどのように生かすかがわかりやすく描かれていると思った。６月１９日(水)の人間ってナンだ？超ＡＩ入門　シリーズ３　第１２回「働く」を見た。人間がＡＩとともに働く未来がすぐそこまで来ていることを実感できる番組だった。ＡＩがこれからさまざまな作業を補って仕事を効率化するときに、人が働くことの概念が変わらざるをえない時代が来ていると思った。工場で使われているＡＩの検査機や、人間とＡＩロボットアームの水の計量対決などは身近な例としてわかりやすかった。人間には理解できないような情報が複雑に絡み合うところは、今後ＡＩに任せることになるという話についても、人間が解明できることには限界があると知ることが大切なのだと感じた。一方で、芸術分野は人間に特有な能力だという話にも納得した。ＡＩの開発には慎重さも必要だと番組の中で触れていたのもよかった。今後はＡＩの持つ危うさの部分も明らかにしながら番組などで議論し続けることが必要だと思った。「人間ってナンだ？超ＡＩ入門シリーズ３」と「ＮＨＫスペシャル」の両方を見て、人とＡＩがそれぞれの得意分野を生かせば人類の未来は明るいと感じた。２つの番組は、ＡＩとの共存において基礎編と実践編を見たような感覚だった。こうした楽しみ方もＮＨＫならではだと思い、大変興味深かった。

○　５月２７日(月)の逆転人生「ヤクザから牧師へ　壮絶な転身　人生はやり直せる」を見た。暴力団組長から生き方を 180 度変えて牧師になった男性の話で、大変興味深かった。番組で取り上げる人をどのように選んでいるのか知りたくなった。

○　５月３０日(木)のフランケンシュタインの誘惑Ｅ＋＃９「放射能　マリーが愛した光線」を見た。キュリー夫人の知られざる一面を描いており、すばらしかった。６月１３日(木)の＃１１「強制終了　人工知能を予言した男」もそれをしのぐほどすばらしかった。イギリスの天才数学者アラン・チューリングを取り上げており、暗号機エニグマの解読、コンピュータの開発、ソフトウェアの発明などがどのように生み出されたのか、幼少期から人生を掘り下げ紹介する部分がすばらしかった。コンピュータやソフトウェアの説明もわかりやすく伝えていた。「軍事研究は科学ではない。トップシークレットであるため結果を公開、検証、修正し発展させることができないからだ」という趣旨の分析も秀逸なものであった。多くの方に見てほしいシリーズで、こうした良質な番組は長く続けていただきたい。

○　６月１日(土)のウワサの保護者会「シリーズ虐待を防ぐには（２）どう叱ればいいの？」を見た。６月１９日(水)に改正児童虐待防止法が成立したが、その中には

親権者による体罰禁止等が盛り込まれている。法案が審議されている中での放送はタイムリーでよかった。子どもを叱る背景にある子育てに悩む保護者の本音が引き出せていたのが印象的だった。教育評論家の尾木直樹さんの「体罰禁止に関しては母親だけを責めても何の解決にもならない。社会が関わるような形で、社会自体が変わらなければ社会的な問題は変わらない。親を責める方向では駄目だ」という趣旨のコメントがよかった。子どもへの虐待が社会問題になっている今、いろいろな世代に関心を持って見てもらえるように総合テレビ等でも特集を組んでほしい。

○　６月９日(日)の日曜美術館「エロスと死の香り～近代ウィーンの芸術　光と影～」を見た。２点気になることがあった。番組の中で「他者とのたいじ」の「たいじ」を平仮名で表記していたがそんなに複雑ではないので、「対峙」と漢字で表記したほうが伝わりやすいのではないか。また、番組の最後にゲストの俳優が「制約の多かった時代のウィーンではなく、自由な現代に生きていることに感謝する」といった趣旨のコメントをしたが、ややもの足りなさを感じた。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫの放送では「ＮＨＫ漢字表記辞典」に掲載されているルールに準拠して表記をしている。漢字で表記し、ふりがなをつけるというやり方もあるのでそのような意見があったことは担当者に伝え、今後の参考にさせていただく。

○　６月１１日(火)のハートネットＴＶ　シリーズ　変わり始めた精神医療（２）「治療の最前線　オープンダイアローグ」を見た。専門職、当事者、当事者家族を交えたオープンダイアローグをすることで状況を確認し合い、長期入院しなくてもすむように、社会で自立した生活ができるようにという番組だった。日本は入院が多すぎると言われており、判断が難しいところもあるが、このような手法があることを広めていく必要性があるのではないかと感じた。

○　６月１８日(火)のハートネットＴＶ「身体拘束のない国～ニュージーランドからの報告～」を見た。精神医療に関心があったので、興味深い内容だった。ニュージーランドの精神医療の最前線の取り組みを取材し、日本との差を深く知ることができた。日本が身体拘束のない国へと変わるためのヒントを探る番組だったので、これで終わりではなく、日本の精神医療について継続して取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

「ハートネットＴＶ」ではこれまでも日本の精神医療の問

題、例えば身体拘束の問題、長期入院の問題などをさまざまな切り口で取り上げている。こういったテーマについては今後も引き続き取り上げていく。

○　６月６日(木)に再放送されたＢＳ１スペシャル「デナリ　大滑降　完全版」(ＢＳ１ 前 9:00～9:50、10:00～10:49)を見た。スキーヤーの佐々木大輔さんが世界最大級の急斜面を一気に滑降する番組だった。朝９時から再放送されていたが、引き込まれて見てしまった。過去に放送された番組で今見ても引き込まれるようなものがＮＨＫにはアーカイブスとしてどれほどあるのかと改めて考えた。その貴重な番組を誰でも全部見られるようにしてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

現在、過去に放送された番組の一部についてはＮＨＫオンデマンドや各放送局の番組公開ライブラリーでご覧いただいている。インターネットの普及により、見たい番組をいつでも見られる環境が整いつつある中で、過去の番組をもっと見たいという要望については、著作権の問題も含めて今後のサービスの在り方を考えていきたい。

○　６月１３日(木)のダークサイドミステリー「あなたもだまされる！？“怪しい歴史”禁断の魔力」を見た。怪しい歴史の魔力を改めて認識させられる番組だった。義経伝説など、有名なテーマを選んでおり、歴史のおもしろさもよく伝えていたと思う。なぜこうした怪しい歴史ミステリーが繰り返されるのかをわかりやすく解説しており、真偽が不明でもでも繰り返されるうちに大衆が信じるようになる怖さは、インターネット社会でフェイクニュースが拡散され信じられていく現代社会と同じだと改めて思った。歴史の見方や学説が変わってきている現代においてタイムリーな企画だった。一方で、有名な歴史学者のコメントは必要だったのかと疑問に思った。

○　６月１５日(土)の英雄たちの選択スペシャル「大奥贈答品日記」(ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 9:00～10:59)を見た。「ダークサイドミステリー」を見た後に視聴したので一連の流れを感じることができた。歴史の危うさを反省し、史料の持つ意味、史料を読み解くおもしろさなどが感じられ楽しく視聴した。歴史の明暗を扱う好対照の番組だったと思う。

○　６月１８日(火)、新潟県村上市で震度６強、山形県鶴岡市で震度６弱を観測する

地震が起きた。地震の影響で翌日から新潟県、山形県の広域で宿泊施設のキャンセルが相当数出ていると聞いているが、これは報道被害を生んでしまう可能性があると言えるのではないか。村上市の市街地と震度６強を観測した地域とはかなり離れているので、その点はしっかり伝えていただきたい。震度６強の地震がもう一度起きるかもしれないと視聴者に伝えることは大切かもしれないが、広域にわたって影響が出る地震と、震源の近くだけが揺れるような局地的な地震には大きな差があるのではないかと思う。そうした点にも配慮して報道していただきたい。

（ＮＨＫ側）

村上市は新潟県の北のほうに位置する南北に長い都市だが、今回の地震では村上市の市街地は震度４、府屋地区は震度６強を観測し、かなり局地的なものだった。当日の地震に関する報道の中では詳細な地図を示し、府屋地区と村上市の市街地の震度の違い、距離が離れていることなども詳しく伝えた。今回のような大規模な地震に際しては、専門家の「１週間以内に再び大きな地震が起きる可能性がある」という指摘も踏まえて、防災・減災報道に努めるのは公共放送の使命だと考えている。指摘いただいた点も十分に考慮したいと思う。

○　新潟県村上市と山形県鶴岡市の地震の関連ニュースは副音声で英語を流しており、画面上でも英語で紹介していた。公共放送としてすばらしい取り組みだと思った。

○　前回の審議会で、土曜ドラマ「デジタル・タトゥー」は社会的な課題を表現できていると申し上げたが、終わりに近づくにつれて、やや人間ドラマに重きを置かれた印象があり残念だった。

○　「空港ピアノ」と「駅ピアノ」を見ているが、ＮＨＫオンラインの「ＮＨＫ_ＰＲ」のページに番組を担当しているディレクターのインタビュー記事が掲載されており、興味深かった。ほかにも制作者の思いや工夫しているポイントなど視聴者の疑問に答える記事がたくさん掲載されており驚いた。こういった取り組みも続けてほしい。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年５月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、２４日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、８人の委員が出席して開かれた。

会議ではまず、２０１８年度関東甲信越地方放送番組の種別ごとの放送時間について説明があった。その後、目撃！にっぽん「おせっかい不動産」について説明があり、、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、６月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　原　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　員　小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
野老真理子（大里綜合管理(株)代表取締役）
仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）
宮田麻一美（万座温泉日進舘女将）

（主な発言）

＜目撃！にっぽん「おせっかい不動産」（総合　４月７日(日)放送）について＞

○　この番組はよく見ているが、心温まるヒューマンドキュメンタリーで、音楽もすばらしいと感じている。今回の番組も、主人公の不動産屋の女性が、さまざまな事情を抱える人たちに生活の基盤である家を仲介するヒューマンドラマのような心温まる内容だった。あえて気になった点を挙げるとすれば、住まいの確保に困難を抱える人たちをなぜ公的機関が支援しないのかという点に触れていなかったことだ。番組は非常に感動的だったが、背景にある行政支援の枠組みの情報についても伝えてほしかった。

（ＮＨＫ側）

なぜ公的機関が支援しないのかという点については、主人公の齋藤瞳さんが行政と連絡を取り、行政の手が回らないところを齋藤さんの不動産屋が支援しているというところもあるのだが、今回の番組では取り上げなかった。指摘は今後の番組制作に生かしていきたい。

○　今回の舞台になった不動産屋には、普通の不動産屋のように物件情報が貼り出されておらず、事務所内にこたつがあり、物件を仲介したお客さんがごはんを食べにくるなど、番組の冒頭から興味をうまく引きつけられ、終わりまで視聴することができた。一番気になったのは、齋藤さんがどうしてここまでして人助けをするのかという動機だったが、大学生のときに味わった孤独、６０代の一人の男性との出会い、仕事に手ごたえを感じるようになってやめられなくなったという３つの話が重ねられたことである程度納得することができた。もし時間に余裕があれば、もう少し深掘りしてほしかったが、この番組時間では十分だったと思う。ナレーションを担当していた俳優の石橋菜津美さんが、落ち着いた声のトーンですばらしかった。音楽も決して番組を邪魔せず、効果的につけられていた。齋藤さんを訪ねてきた人たちのサブストーリーについても、最後まで追いかけて描かれており、すっきりと見終えることができた。

○　「おせっかい不動産」という番組タイトルがユニークで、楽しく視聴した。齋藤さんがやっていることは、とても真似できることではないが、勇気をもらった。ナレーション、カメラワーク出演者もよく、大変見やすかった。番組の内容も、齋藤さんがどんなお客さんにも家族のように接し、人と人をつないでいくというすばらしさだけではなく、その裏側にある悩みや、苦悩も描かれていた。ただ、テレビでどこまで伝えていいのかという面はあると思うが、もっとギリギリの大変さが描かれると、齋藤さんが今の仕事を続けている意味や、流した涙の意味が、もっと大きな感動と共感を持って、私たちに伝わったのではないか。

○　地域コミュニティーとしての不動産屋のドキュメンタリーとして、齋藤さんを取り巻く人間模様やお客さんの人生相談にのる様子などを興味深く見た。齋藤さんを突き動かす原動力についても、過去と共にきちんと説明されており納得できた。ただ、齋藤さんを勇気づけていたもう１人の社員や、物件を仲介してもらった人たちの齋藤さんに対する思いなどはもう少し深掘りしてもよかったのではないか。また、私生活の部分にももう少し切り込むことができれば、おせっかいの本質にさらに近づけたのではないかと感じた。齋藤さんの仲介で、簡易宿泊所を出て新しい生活を始めた男性が、２歳の頃に別れた父親に会うために富山へいく場面があった。人に

よっては感動的で、いい場面だったかもしれないが、今回の番組では齋藤さんの物語に徹するべきだったのでないかと思った。

○　番組から２つのことを学ばせてもらった。１つは、仕事の原点だ。仕事とは目の前のお客さんのニーズにきちんと応え、その対価としてお金を頂くこと。そして、そのお金の循環で社会が成り立っていること。齋藤さんを通して、その原点を改めて受け止めることができた。そして、そうした仕事の繰り返しが、結果として支え、支えられる地域コミュニティーを作り出しているのだと思う。齋藤さんの不動産屋は、お客さんがごはんを食べに来たり、悩みごとを話しに来たりなど、一見仕事ではないような関わり方をしているが、それが心底にある要望を満たしているからこそ、新しいコミュニティーを作り上げていたのだと思う。番組を通して、さまざまな社会問題の解決を行政、政治任せにするのでなく、関係者がそれぞれにできる“おせっかい”でできることもあるのだと感じた。

○　主人公の齋藤さんの情熱と、周りの人たちとの心温まる交流を通して大切なことが伝わる番組だった。１つは、「安心できる自分の場所があると生活が安定し、人生にやりがいを持てること」、そして、「人とのつながりや、人に頼られることが大事で、それが人生の喜びになること」だ。どんな依頼者に対しても齋藤さんが持っているその２つのポリシーが貫かれていて、大変わかりやすい番組だった。一方で、ＤＶの被害者など、お客さんが社会的な弱者であるなかで、齋藤さんの不動産会社がきちんと利益を上げることができているのかについては疑問を感じたまま番組が終わってしまったのは残念だった。

○　「目撃！にっぽん」はよく見ているが、日常の中で頑張っている人に焦点を当てており、日曜日の朝にふさわしい、気軽に見られて人情味あふれる番組だと思う。番組の舞台となった横浜市にも大変な困難を抱えている人たちがいて、不動産屋という形で支援している人がいることに驚いた。一方で、以前はこうした商店街の店が仕事もしながら、お互い様の気持ちで地域の人々を支え合っていたのだと考えると、街の商店の原点を見るような印象も受けた。部屋を借りるには、安心材料を担保して大家さんを説得しなければならず、行政の介入しにくい分野だと思うので、齋藤さんが経営する不動産屋を描いた今回の番組は、そうした社会問題に対しても希望が見いだせる内容になっていたと思う。

○　「おせっかい不動産」というタイトルが大変興味深かった。番組冒頭で、暴力を振るう夫から身を隠すために部屋を探している人が紹介されていたが、話し方やシルエットで本人が特定されるのでないかと心配になった。その後に登場した多くの

人たちが明るい表情だったので、冒頭の人はナレーションの紹介にとどめてもよかったかもしれないと感じた。また、番組には、簡易宿泊所から出て自立した生活を送れるようになった男性、発達障害の息子を持つ母親、軽度の知的障害がある人などが次々に登場したが、話がやや散漫になった印象だった。そのうちの一人が、幼いころに別れた父親と会うために富山まで行く場面があった。齋藤さんのおかげでこんなによいエピソードが生まれたということを伝えるには必要だったのかもしれないが、本題から少し離れており、その時間を齋藤さんにまつわる別のエピソードを紹介する時間に使ったほうがよかったのではないかと思った。

○　中心に描かれているのは不動産屋の齋藤さんだが、彼女を通し、依頼者の生きざまが自然と浮かび上がっていた。人が生きていくのに欠かせないのは雨露をしのげる住まいとそこで生き続けることだ。孤独のつらさを知る齋藤さんだからこそできる寄り添い方だと思うが、彼女自身も依頼者や共に不動産屋を立ち上げた社員に支えられていることが伝わってきた。番組の要ともなっていたのは、職場のストレスから統合失調症、ギャンブル依存症になり、簡易宿泊所住まいから抜け出せない男性だった。わらをもつかむ思いで相談に来たその男性が、齋藤さんに対し赤裸々に自分の思いを語る様子に、２人の信頼関係が映し出されていた。その後男性が４３年ぶりに富山で父親と再会し、将棋を指し、布団を並べて寝る姿には涙が止まらなかった。その一連のくだりをよく撮影できたと思う。被写体との距離感、カメラアングル、構成などがよく考えられ、相手の立場に立ったすばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

今回の番組は、去年の秋に「ＮＨＫニュース　おはよう日本」で５分企画として放送したものに、追加取材を重ねて制作したものだ。放送後に同じように困っている視聴者からの反響もあり、多くの人に番組が届いたことはよかったと思っている。

＜放送番組一般について＞

○　４月３０日(火)のＮＨＫスペシャル「日本人と天皇」(総合 後8:00～8:54)を見た。皇位継承についていろいろな角度から捉え、視聴者に新しい情報を伝えるとともにさまざまな問題提起もされていた。日本中が改元に向けて祝福ムードに包まれている中、引き締まった、時代の変わり目にふさわしい番組だった。

○　ＮＨＫスペシャル「日本人と天皇」は、大嘗祭の儀式の再現、時代の変遷などが丁寧に描かれており、じっくりと興味深く見た。三笠宮崇仁親王の「皇室典範」の改正案の素案が見つかったのは大変な発見だと思う。ＮＨＫのラジオに出演された三笠宮親王の声を聞き、柔軟な思考に敬服した。今後の天皇制の在り方について非常に考えさせられる内容だった。後半部分の戦後の天皇制の在り方だけで「ＮＨＫスペシャル」を制作してもらいたいと思った。

○　ＮＨＫスペシャル「日本人と天皇」を見た。伝統の大嘗祭の内容、皇位の安定的継承問題を徹底的に取材し、新しい時代に国民はこの問題とどう向き合うべきかを考えさせるよい番組だった。大嘗祭を再現する際に、悠紀殿のセットを造る場面で工事関係者が「せーの」と声をかけていたが、一瞬にして現実に引き戻されたような気がして興ざめしてしまった。ただ、三笠宮崇仁親王が、女性天皇がいてもしかるべきでないかと枢密院に意見書を提出していたことなど、これまであまり知られていないような事実も伝えており、全体としては、平成最後の日にふさわしい大変よい番組だった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「日本人と天皇」は改元のタイミングで、皇室にまつわる知られざる歴史をしっかり描いた上で、次の時代に積み残している課題を伝えようという意図で企画し、あの日に放送した。今後もさまざまな形で取材を続けていきたい。

○　５月５日(日)のＮＨＫスペシャル　シリーズ　人体Ⅱ遺伝子　第１集「あなたの中の宝物“トレジャーＤＮＡ”」、１２日(日)のＮＨＫスペシャル　シリーズ　人体Ⅱ遺伝子　第２集「“ＤＮＡスイッチ”が運命を変える」を見た。第１集の冒頭でゲストの鈴木亮平さんの口の粘膜から採取したＤＮＡの情報だけで人物像を再現していたが、その顔が鈴木さんにかなり近く、そこから引き込まれた。全体としても、タモリさんと京都大学ｉＰＳ細胞研究所所長の山中伸弥さんのコンビやゲストが番組をうまくリードすることで、難解とも言える最先端の話を分かりやすく伝えていた。また「山中メモ」という形で、生命倫理の問題など今後の課題を整理し、問題提起もされていて、番組に深みを与えていた。

○　ＮＨＫスペシャル　第１集「あなたの中の宝物“トレジャーＤＮＡ”」、ＮＨＫスペシャル　第２集「“ＤＮＡスイッチ”が運命を変える」はとても分かりやすい番

組だった。個人の病気はこれまで経験や勘などで片付けられてきたが、ＤＮＡの解析で、科学的にきちんと解明されていることが一般の人にも分かりやすく伝わったと思う。構成や出演者の人選もとてもよかった。番組の中で、視聴者がすべての病気がすぐに治るようになるのだと誤解しないように、山中さんが、倫理的な面や経済的な面での苦労などを研究者の視点で伝えたのもよかった。

○　４月２０日(土)のＮＨＫスペシャル　平成史スクープドキュメント　第７回「自衛隊　変貌の３０年～幹部たちの告白～」を見た。平成は平和でよかったと語られることが多いが、この番組を見て、5,600 人の自衛隊員が派遣された平成１６年のイラク派遣について、１人も亡くならずに日本に帰国できたことは奇跡的なことだったのだと思い知った。隊員が亡くなった場合の搬送経路が考えられていたこと、１２人分の棺が用意されていたことなどを知り、私たちが国内で聞くことと、実際の現場での感覚が大きくずれていると感じた。

○　４月２７日(土)のＮＨＫスペシャル「崖っぷち！？　わが町の議会」を見た。現状の課題だけでなく、新たな取り組みも紹介があってよかったが、統一地方選挙の前に放送してほしかった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「崖っぷち！？　わが町の議会」は普段なかなか取り上げることのない地方議会を取り上げた。選挙期間中は公平・公正な選挙報道に徹していることから、統一地方選挙・後半戦直後の週に放送することにした。地方議会の在り方について視聴者の関心も高まっている中で放送を出すことに意味があるという判断だった。

○　５月１９日(日)のＮＨＫスペシャル　シリーズ　子どもの“声なき声”　第１回「いじめと探偵～行き場を失った“助けて”～」を見た。いじめが日本中で大きな問題になっているなか、大変意義のある番組だった。

（ＮＨＫ側）　ＮＨＫスペシャル「いじめと探偵～行き場を失った“助けて”～」はやや強引にも見える調査方法をする探偵に頼らざるをえない現実を描くことで、教育現場がいじめに対して解決能力を失っている現実を伝えたいとの思いで制作した。シリーズになっており、５月３０日(木)にＮＨＫスペシャルシリーズ　子どもの“声なき声”　第２回「“不登校”４４万

人の衝撃」で不登校の問題を取り上げる。

○　４月２９日(月)の総決算！平成紅白歌合戦「第１部」「第２部」(総合　後 7:00～8:55、10:00～11:30)、４月３０日(火)の「ゆく時代くる時代～平成最後の日スペシャル～」(総合 前 8:15～9:55、10:15～11:54、後 1:05～2:00、2:05～4:00、11:25～5 月 1 日(水)前 0:30) など、ＮＨＫの番組を通して日本人としての誇りや喜びを感じ、改めて令和を平和な時代にする責任と覚悟を持つことができた。令和を迎えた際の一連の番組づくり、報道での大きなねらいなどがあれば伺いたい。

（ＮＨＫ側）

天皇の退位、新天皇の即位がある２日間の全体編成については半年以上前から議論してきた。４月３０日は、皇位継承を重要な問題として、「ＮＨＫスペシャル」で伝えた。５月１日は即位の儀式の部分をニュースで伝え、それ以外を番組で補完するという全体構成だった。

（ＮＨＫ側）

４月３０日、５月１日の２日間は特設のニュース番組を長時間放送した。今回の退位と即位が今の憲法の下で「皇室典範」の特例法に基づいて行われていることを前提にし、皇位継承の問題も含め、多角的に視聴者に考えてもらう材料を提供しようと考え、番組の構成やゲストの人選などについて検討した上で放送した。

○　４月３０日(火)の「ゆく時代くる時代～平成最後の日スペシャル～」を見た。お笑い芸人の爆笑問題やタレントの指原莉乃さんなどを起用したおもしろい番組で楽しめた。一方で、「天皇退位」の関連ニュースでは、全体の雰囲気の中で違和感を覚えたキャスティングもあった。

○　５月１日(水)の「ニュースウオッチ９」のエンディングで新しい天皇陛下のご成婚の年齢を間違え、お詫びと訂正を入れていた。ＮＨＫの看板ニュース番組の中でこのような間違いをしたことは歴史的汚点とも言えるのではないか。事前の確認をもっと厳重に、慎重にやるべきだと思った。

（ＮＨＫ側）

天皇のご成婚の年齢を間違えたことについては大変申し訳

ない。引き続き確認を慎重にするよう努める。

○　４月２６日(金)の首都圏情報　ネタドリ！「“貧困”から抜け出したい～子ども支援の現場から～」を見た。見えにくくなっている子どもの貧困の現実を、埼玉県の取り組みを例に分かりやすく伝えていた。貧困の連鎖を防ぐための学習支援の現場を取材していたが、関わる人がいることでこれだけ変われることが伝わり、今後の社会的なサポートの必要性を訴えるよい内容だった。

○　５月６日(月)のザ・ディレクソン「全国大会　生放送スペシャル」(総合 後6:05～6:48)を見た。２つの県がチームを組み、地域の課題の解決法を考える番組だったが、大変興味深く見た。この手法でほかにも何か展開できるのではないかと可能性を感じる番組だった。

○　５月１４日(火)の「あさイチ」に俳優の長澤まさみさんが出演し、切り干し大根のレシピが紹介されていた。おいしそうなレシピがいくつか取り上げられていたが、放送中にはメモを取るタイミングがなかった。同じ番組を見ていた友人が、ＳＮＳでレシピのホームページ記事をリンクで紹介してくれていて、確認することができた。テレビだけではなく、ホームページや、テキストなども含め、さまざまな形で情報提供していただき、大変助かっている。

○　５月１８日(土)から始まった土曜ドラマ「デジタル・タトゥー」は、インターネットが苦手な弁護士と自分を重ね合わせて視聴した。インターネット社会がどんな世界なのかを自分のこととしてかいま見ることができた。１つ１つの事実を自分なりにかみ砕きながら見るドキュメンタリーと違い、ドラマでは制作者の思いを素直に受け止めて理解することができ、インターネット社会の問題点が赤裸々に分かり、引き込まれた。今後の番組制作でも、ドラマとドキュメンタリーの効果を使い分け、社会の課題解決に積極的に寄与していってほしい。

○　４月２８日(日)の古典芸能への招待　能楽パリ公演　能「砧」を見た。丁寧なインタビューと背景説明がよかった。副音声で奈良大学の三宅晶子教授による解説放送を行っているが解説もすばらしく、能だけを堪能したい場合と解説を聞きたい場合と両方楽しめた。ただ、人間国宝級の方たちが登場する番組の中で、若いアナウンサーが黄色い服で登場して、少し浮いた印象だった。

○　５月６日(月)の「４歳児のヒミツ～子どもの行動をカガクする～」（Ｅテレ 前9:00～9:44)を見た。お互い初めて会う４歳児たちを集め、生活してみるとどんな

ことが起こるのかという番組だった。子どもたちのやりとりや、子どもながらに折り合いをつけるところが大変おもしろく、最後には大人でも考えつかないような解決策を見いだしていて驚いた。４歳児のおもしろさが表現された番組だった。

○　サイエンススペシャル「フランケンシュタインの誘惑Ｅ＋」は、科学の闇の部分を取り上げる挑戦的な番組だと思った。吉川晃司さんのオープニングテーマや、ナレーションもおどろおどろしい感じで番組にマッチしている。番組にはマッドサイエンティスト扱いされるような方が登場してくるのだが、それを演じている外国人の俳優さんの熱演、快演ぶりが非常によく、字幕だけで解説されるなど抑制がきいた演出もすばらしいと感じている。ただ、「ドクターフランケンＥ＋」という、球体と円柱を組み合わせただけのＣＧが出てくるコーナーは少し興ざめな印象がある。

○　「デザイン　あ」では、「グラデーション」という新曲が大変すばらしい。単に色のグラデーションだけではなく、ＬＧＢＴや性別もはっきり分けずにグラデーションで考える必要があるということまで考えさせる内容になっておりすばらしかった。

○　５月１７日(金)の岩合光昭の世界ネコ歩き選「キプロス」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ 後 10:00～10:59)を見た。金曜の夜の疲れたときにとても癒やされる番組だ。ネコ目線、定点カメラ、絶妙なショットで、まるで絵画のようなフレームの中をネコが自然に動いていて、見ていて疲れない。落ち着いたナレーションにも癒やされ、ネコのよさも分かる。地中海のキプロス島が舞台になった今回は、人とネコが穏やかに共存し続けている姿が分かりやすかった。

○　大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」は視聴率があまりよくないようだが、テンポの問題もあるのではないか。ドラマでは、場面が変わる際に時代も変わってしまい、どこの誰の話をしているのか、ついていけない視聴者もいるのではないか。また、ナレーションも高齢の方にはやや聞きづらい印象だ。ただ、脚本家の宮藤官九郎さんのおもしろさは随所に見られ、東京オリンピック・パラリンピックが間近になったときに、日本人として知っておくべき話も多いので今後に期待したい。

○　４月から「三宅民夫のマイあさ！」を聴いているが、最近、機動力や話題性、迅速性などを生かした番組づくりが充実してきた感じがする。４月２４日(水)は「香港の外国人」というテーマで、フィリピン人家政婦を取り上げていた。家政婦の手

取りは６万円で、半分の３万円を母国に送金しているため借金に苦しみ、自殺者も多く、社会問題になっているという話だった。放送では取り上げられなかったが、実はこうした母国への送金はブロックチェーン送金で行われていると耳にした。そういう話も入れると時代の最先端に取り残された苦しい事情が際立ち、情報に幅が出たのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「三宅民夫のマイあさ！」はインターネットで聴く人の数が、以前の番組より少しずつ増えてきており、今、スタッフ全員が「マイ！Ｂｉｚ」、「ワールドリポート」などさまざまなコーナーをより充実させようと取り組んでいる。

○　大相撲中継でしこ名にふりがなが付くようになり大変よい。いつから始めたのか教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

大相撲中継の全力士のしこ名にふりがなを付けたのは５月場所からとなっている。

○　クラシック番組で、いろいろな楽器のパートが画面に映る際に、楽器の名前が分からないことがある。番組内で、楽器名を教えてもらえるとありがたい。

（ＮＨＫ側）

珍しい楽器の場合は番組の中で字幕スーパーを入れ、演奏の前に説明することはある。頂いた意見は今後の番組制作に生かしていきたい。

（ＮＨＫ側）　前回の審議会で、歴史秘話ヒストリア「世にもマジメな魔王　織田信長　最新研究が語る英雄の真実」で「織田信長が勝ちどきを上げるシーンで左手を挙げていた。織田信長は左利きなのか」という質問を頂いた。信長の利き手が分かる資料は残っていないが、江戸時代の文書には勝ちどきを上げる際に使うのは左手との記述がある。専門家に話を伺ったところ「戦国時代にどのような作法だったかは不明なので、左、右のどちらを挙げるかは神経質になることはない」ということだった。

（ＮＨＫ側）

前回の審議会で「将棋フォーカス」の番組ホームページの話で「ｈｔｔｐ：／／」よりも「ｈｔｔｐｓ：／／」のほうがよいのではないかという意見を頂いた。ＮＨＫではホームページを安心して見ていただけるように従来の「ｈｔｔｐ」から通信が暗号化される「ｈｔｔｐｓ」への移行を進めている。「将棋フォーカス」はすでに「ｈｔｔｐｓ」対応が完了していて、実際に「ｈｔｔｐ」と打っても「ｈｔｔｐｓ」に転送される仕組みになっている。

○　ＮＨＫにはより安全な「ｈｔｔｐｓ」が世の中に普及するように、引き続き取り組んでいってほしい。

（ＮＨＫ側）

前回の審議会で「クラシック音楽館」などで放送中に曲目を知るにはどうしたらよいか、番組で放送している曲名をリアルタイムで知る方法について質問を頂いた。放送中の番組情報を見る手段には例えばＥＰＧ（電子番組表）がある。最大200字の番組情報を表示しており、３月２４日（日）のクラシック音楽館「魅惑のアンサンブル　アンドレ・プレヴィンをしのんで」ではＥＰＧで、演奏された全５曲の曲名と作曲者名を表示した。データ放送を活用すれば、リアルタイムで今放送している曲について、知りたいときに表示することも技術的には可能だが、番組と連動させるにはシステム、体制の構築が必要で、現在クラシック音楽の番組等では行っていない。引き続き便利な情報提供の在り方について議論を続けたい。

○　４月２８日（日）の明日へ　つなげよう　証言記録　東日本大震災　第８３回「被災地を“まるごと”支援せよ～名古屋市役所の挑戦～」を見た。被災した、岩手県陸前高田市を８年に渡って支援し続けている名古屋市の取り組みを紹介していたが、こんな復興支援があるのだということ、名古屋市がこのような支援を行っていたということを初めて知った。具体的な仕組みや計画、何を行ったかが紹介され、被災地の人たちの声や様子も描かれていて、わかりやすく説得力のある番組だった。これからの災害に備えて、支援する側、される側、どちらにも参考になり、希望を与えられる番組だった。日本中の人に見てほしいと思った。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局

２０１９年４月ＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ関東甲信越地方放送番組審議会は、１９日(金)、ＮＨＫ放送センターにおいて、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、水戸放送局の取り組みと今後の予定について報告した。その後、茨城スペシャル「“原発安全神話”崩壊８年　住民の安全は守られるのか」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委員長　原　拓男（千曲錦酒造(株)相談役）
副委員長　奥山千鶴子（ＮＰＯ法人びーのびーの理事長）
委　員　岩佐　十良（(株)自遊人代表取締役）
小野　訓啓（(株)めぶきフィナンシャルグループ取締役）
斉藤とも子（俳優／社会福祉士・介護福祉士）
杉山　弘子（アサヤ食品(株)代表取締役社長）
杉山　正司（元埼玉県立文書館館長）
野老真理子（大里綜合管理(株)代表取締役）
仁衡　琢磨（ペンギンシステム(株)代表取締役社長）
宮田麻一美（万座温泉日進舘女将）

（主な発言）

＜茨城スペシャル「“原発安全神話”崩壊８年　住民の安全は守られるのか」
（総合　３月１５日(金)放送）について＞

○　地域放送局の取材・制作でありながら、フランスまで世界初の現場含めて取材し、また、同時に地域の課題をしっかりと見つめていることをうれしく感じた。番組では、日本よりもフランスの方が福島の教訓を生かせているようで、もどかしさも感じたが、他国との比較や状況について知らせてくれたことが重要だ。ただいくつか指摘しておきたい点がある。番組では、東京電力福島第一原子力発電所の近くに住む男性を取材していたが、そのねらいや意図がよく伝わらなかった。また、難しいテーマというこ

ともあるが、２７分は短すぎて、中途半端に終わってしまったようにも見えた。見た後にもう少し考えたくなるような終わらせ方をしてほしい。原発に関心が薄い人も増えていると思うので、こういう番組を見てもらえるような工夫を今後も継続してほしい。

○　原発先進国であるフランスが、福島の事故後に取り組んだ３つの組織のことはとても参考になった。自ら志願した 300 人が１４人で１チームを作り、トラブルが生じたときには、すべての原発に１２時間以内で行き、冷却、電源復旧など、原子炉の安全を守るということだった。放射線の影響を受けずに、長時間人が入ったまま事故処理できる機材なども保有し、原発事業者と地域住民の橋渡しをする役割も担っていた。フランスは、原発事業者がどんな状況でも安全を保障し、自分たちで守るという力強い意志を感じた。誰も矢面に立たない日本の姿勢にやるせないものを感じ、民主主義が確立している国とそうでない国の差のようにも思えた。自然災害の多い日本では原発そのものの賛否も問われるべきなのでないか。また、想定外のことが必ず起きると想定して考えていかなくてはいけないと思った。

○　フランスで取材された具体的な映像を見ることで説得力があった。県域放送ではもったいない内容なので、全国向けでも放送してほしい。一方で、実際に事故が起きた日本の現状は、規模も責任体制もフランスには及ばない印象を持った。フランスのような対策にどれだけの予算と人が必要なのかを知った上で、それでも原発が必要だという人の意見も聞いてみたいと思った。また、増え続ける核のゴミの問題も重要な視点だと思う。今後も事実を伝え続けていってほしい。

○　海外まで取材に行ったことに敬意を表したい。東京電力福島第一原子力発電所の事故後、フランスでは電力会社がＦＡＲＮという原発専門部隊を自発的に結成し、自分たちで責任を取るという危機管理意識が形成されていた。当事者である日本はどうなのか、日本が対応出来ている部分、出来ていない部分をもう少し丁寧に取り上げてほしかった。事故を起こさないのが一番だが、起きた時にどうすべきかという視点でよく取材されていた。ただ、住民目線でもう少し掘り下げてほしかった。ナレーションが番組とマッチして印象深く見た。

○　全体として、視聴者に何を訴えたいのかが今一つ見えなかった。世界で初めてテレビカメラが入ったというフランスの電力会社の原発専門部隊本部の取材で、フランスの取り組みはわかったが、それによって何を伝えたいのかがわかりにくかった。パリでの取材で使われていた住民のインタビューは、２人とも「原発が必要だ」というものだったが、フランスの実際の世論からしても２人がともに賛成するだろうかと疑問

を感じた。サンマルタン島への派遣についても、原発の安全性の話とは少し違うのではないか。隊長の「安全を保障する」という言い方についても、フランスのプロパガンダのようにも感じられた。もう少し、突っ込んだ取材があってもよかったのではないか。また、日本の現状とフランスとの対比も見せてほしかった。

○　フランスの取材映像で、原発専門部隊の人たちが自信をもって取り組んでいる姿を見ることで、日本の対応の遅れや体制の不備が問題提起されていると思った。フランスは３つの組織が連携し、責任の所在がわかりやすい。そのような取り組みを続けることで、過去の教訓が生かせるのだろう。日本は電力会社が中心になり、事故に対応する組織作りを本当にしているのか、住民をつなぐ組織を作っているのか、具体策をほとんど持たずに再稼働を進めているのではないかと不安になった。

○　原発の問題を取り上げた意欲的な番組で、必要な情報提供や問題提起はされていたと思う。原発の再稼働については周辺自治体の同意が必要だが、首長選挙の投票率が低いなど、地方自治への住民の関心が低いことも課題だと感じた。

○　全体的にはとてもよい番組だった。ただ、女性のナレーションがよかったのに、途中から男性に変わり、違和感を覚えた。最後まで同じナレーターでもよかったのではないか。原発事業者と地域住民をつなぐ地域情報委員会が発足したというフランスの話題のあと、番組では「住民が定期的に情報を得るしくみのない日本」とコメントしていたが、東京電力福島第一原子力発電所の事故は世界的な影響を与えた出来事なので、番組の中で日本の具体策が示せればよかったのではないか。

○　水戸放送局がフランスまで取材した、意欲的な番組だった。フランスの今の体制と、日本の現状が対比的に描かれていた。タイトルどおり、８年経過した今、住民の生活は守られないのではないかという危機感を持って見られた。フランスでは電力会社によって原発専門部隊が作られているなど組織的に対応している点がとても印象に残った。日本では、何かあったときに都道府県、市町村、消防、自衛隊、ＮＧＯなど、誰がどのような役割を担うのかが決まらず混乱することが多いのではないか。地域の人たちへの情報発信についても、日本ではまだまだ個人レベルでの取り組みにとどまっているように感じた。これから日本がどう組織的に取り組んでいくのかといった問題提起がなされていたと思う。２７分の番組に多くの内容が盛り込まれていたので、もう少しわかりやすく編集するとなおよかったと思う。日本の今後については、次の機会に示してほしい。

○　番組の中で字幕スーパーがかなり多く出ていた。普通の番組だったらうるさく感じ

ることも多いが、この番組は東京電力福島第一原子力発電所やメルトダウンなどの重要な情報はカラーで大きく示されていてよかった。ナレーションも落ち着いていてよかった。一方で、「安全神話の認識を変えなくてはならない」という専門家のコメントは、もっと掘り下げるべきではなかったか。フランスの取材に関しては、ＦＡＲＮ、電力会社や研究機関などが作る、専門の資材や技術者を派遣する組織、Ｇｒｏｕｐｅ ＩＮＴＲＡなどの組織が、「想定外はありうる」という体制で活動していることを紹介したのはよかったが、日本でなぜそうした組織が作られないのか、国や関係機関などに取材してほしかった。

（ＮＨＫ側）

原発事故から８年という中で、今、東海第二発電所が再稼働に向け動き出している。想定外の事態にどう備えればよいのか、住民の命をどう守ればよいのかを考えるというねらいで取材をした。ご指摘があったナレーションについては、今回、水戸放送局の記者がフランス取材を行ったことから、その部分については記者本人が報告する形にした。日本の現状はどうなのかという点については、引き続き行政の動き、電力会社の取り組み、住民の動きなどを取材していく。専門家のインタビューについては、番組の時間配分の問題もあったが、もう少し工夫できたかもしれない。フランス市民の声は、「原子力が必要」という意見だけでなく、冒頭で、「原発に不安を感じている」という声も紹介し、バランスを取ったつもりだ。サンマルタン島のケースは原発事故と関わりはないが、有事の際に組織として対応したということを重視して取材した。そのことでフランスの国民に一定の信頼が生まれているということが現地取材で分かり、紹介した。

○　フランスの電力会社が専門部隊を作ったという内容があったが、日本の場合はどうなのか。自衛隊は特殊なチームを作っていないのか、政府は専門の識者を派遣するような組織を作っていないのか、事故現場でも活動できる車両を日本では作っていないのか、など疑問に思った。

（ＮＨＫ側）

指摘の部分は今回の番組では取り上げなかったが、原発の問題についての大切な視点として、日々のニュース、企画などで今後も取材を続けたい。

○　フランスの現状を紹介したのはとてもよかったが、タイトルが「住民の安全は守られるのか」なので、日本の原発事故対策の現状についても取材をしてほしかった。２７分という時間はやや中途半端に感じた。茨城県域だけでなく、全国放送してほしい。できれば毎年こういう番組を制作してもよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

去年１０月には茨城スペシャル　検証「“原子力発祥の地”はいま」を４５分枠で放送しており、これまでもニュース等で原発について取り上げている。非常に難しいのは、若い人も含め多くの人の関心が薄く、そもそも何が問題なのかがわからないと感じている視聴者も多いと実感している。わかりやすく、若い人が見ても関心を持ってもらえるように、日々のニュースや「茨城スペシャル」等でこれからも原発の問題を取り上げていきたいと考えている。

＜放送番組一般について＞

○　４月１４日(日)のＮＨＫスペシャル「密着ドキュメント　片付け～人生をやり直す人々～」を見た。部屋中にあふれかえる雑多なものを１つ１つ手に取り、捨てるか捨てないかを“ときめき”の強さで決めることや、洋服に始まり、最後に写真を片づけるという順番にも感心した。３人の依頼者一人一人に寄り添い、整理整頓していく様は感動的だった。物と人生が重なっていること、捨てられないのは過去にこだわり未来に不安があるのだ、という話にも納得させられた。大変参考になるよい番組だった。

○　ＮＨＫスペシャル「密着ドキュメント　片付け～人生をやり直す人々～」を見た。片付ける順番の話には納得させられた。具体的に何を捨ててよいのかがわからなくなった時に、ときめくものを残すというのは女性にはとてもわかりやすく、名言だと思った。いろいろな立場の人がそれぞれの立場で見られる番組だと感じた。実生活に役立つ番組だった。

○　土曜時代ドラマ「雲霧仁左衛門」は以前ＢＳプレミアムで放送していたものが総合テレビでも放送されて大変うれしく思う。上質な時代劇を制作できることはＮＨＫのすばらしい点かと思う。ＢＳ時代劇でよいドラマを制作した場合は総合テレビ

でも放送してほしい。

○　「空港ピアノ」を見た。「ドキュメント７２時間」に似た雰囲気もあり、番組のフォーマットもよくできていると思う。空港、駅に置いてあるピアノをうまく使い、人間模様を見せる番組づくりがとてもすばらしい。ぜひ継続してほしい。

○　「将棋フォーカス」の番組内でホームページを案内する際のＵＲＬが「ｈｔｔｐ」で紹介されているが、セキュリティーのことを考えれば「ｈｔｔｐｓ」にしたほうがいいのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

確認してご報告する。

○　「チコちゃんに叱られる！」では、ここ２回ほどチコちゃんの顔のＣＧを制作するチームが大型連休を取るための「働き方改革」のコーナーがある。カメラにチコちゃんの顔が映らないコーナーを通して、今の世の中の課題について、問題提起するのはよいことだと思った。このコーナーのねらいがあれば教えてほしい。「チコちゃんに叱られる！」を毎週ＮＨＫオンデマンドで見ているが、２週分しか見られない。配信についてルールがあれば教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

働き方改革はＮＨＫにとっても重要な課題だが、「チコちゃんに叱られる！」のコーナー演出については一種のエンターテインメントとしてご理解いただきたい。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫオンデマンドの配信は２週間の見逃し配信と１年間のライブラリー的な配信の２種類があるが、「チコちゃんに叱られる！」は２週間の見逃し配信とさせていただいている。

○　３月２５日(月)～２８日(木)の「ひよっこ２」(総合 後7:30～8:00)を見た。誰かが誰かを自分のことのように思いやるなど、切なくて泣かされ、見ると優しい気持ちになるドラマだった。こういうさわやかな番組をこれからも制作してほしい。

○　４月から始まった連続テレビ小説「なつぞら」は出演者がすばらしく、スケールも大きくてよい。今回はヒロインを含めて実績のある俳優のキャスティングだが、過去

にあったような　　無名のヒロインが成長していくドラマもよかった。オープニングにアニメが使われるのもインパクトがあり、多くの若い人たちも引きつけるのでないか。おじいちゃんとなつのやりとりを見て、泣いたり、納得したりしながら見ている。北海道十勝の開拓をテーマに大自然、酪農についても考えさせられる。今後の展開が楽しみだ。

○　３月３０日(土)の天皇　運命の物語　第４話「皇后　美智子さま」(総合 後 7:30～8:43)を見た。ＮＨＫならではの貴重な映像、取材で感動的だった。番組は美智子さまの御歌を縦糸に、大学時代の話、元侍従長の方の話、ハンセン病の方のお見舞いのエピソードなどを横糸にして織りなされ、自然に国民のそばに寄り添い、ことばをかけていた美智子さまの表に出ないご苦労をかいま見ることが出来るよい番組だった。

○　３月３０日(土)の土曜ドラマ「浮世の画家」(総合 後 9:00～10:29)を見た。情景が美しく映画のような出来栄えで、出演者もすばらしかった。ドラマに３点の絵画が出てきたが、３月１７日(日)の日曜美術館「“浮世の画家”を描く～カズオ・イシグロの小説に挑む現代作家～」で事前に３点の絵の制作過程が特集された。原作からどのようなインスピレーションを感じたのかなどについて、作家の思いを知ることができ、絵画にも注目してドラマを楽しむことが出来た。ほかの番組と連携することで、視聴者にいろいろな新たな見方が提供されるとさらに番組が楽しめると思う。こういった楽しみ方が出来る番組を今後もぜひ制作してほしい。

○　４月３日(水)の歴史秘話ヒストリア「世にもマジメな魔王　織田信長　最新研究が語る英雄の真実」を見た。信長の生涯を新たな視点で捉え、私たちの認識とは全く逆の彼の人生を伝えてくれたいい番組だった。ただ、信長が勝ちどきを上げるシーンで左手を挙げており、信長は左利きだったのだろうかと気になった。

○　４月９日(火)のプロフェッショナル　仕事の流儀「地域を守る　命の闘い～救急医・今明秀～」を見た。八戸を中心に広域的な医療サービスをどのように提供していくかについて、地域では病院へのアクセスが悪くみんなが諦めている中で、今医師はドクターヘリを導入するなど、行政とも連携しながら取り組んでいた。地域の安心には欠かせない医療のインフラをどう整えるかが大変重要になってきている中、興味深い番組だった。

○　連続テレビ小説「なつぞら」を毎日楽しみに見ている。主人公の祖父を演じる草刈正雄さんのことば、存在だけでドラマをけん引しているように感じている。一週目に

「人が怒るのはまだいい、自分が守られているから怒り、感情が生まれてくる。怒りが出せない、あきらめている方が問題なんだ。」というセリフがあり、厳しい状況でも諦めない姿勢に先の「プロフェッショナル」と近いものを感じた。ドラマでは牛のことを「ウシ」と呼んでいるが、東北では「べこ」と呼んでいるので、北海道にも地域の呼び方がないのか気になった。

○　４月１２日(金)の首都圏情報　ネタドリ！「アニメ×パラリンピアン　東京大会まで５００日」を見た。東京　パラリンピックに向けて、日本を代表する漫画家やアニメ監督と協力してＮＨＫが制作したパラスポーツの魅力を伝えるオリジナルアニメが取り上げられていた。車いすラグビーはぶつかり合いが激しく、床を傷つけてしまうので練習場を探すことが難しいことなど、さまざまな問題を取り上げていて、パラスポーツを取り巻く現状がよくわかった。視覚障害者柔道を取り上げたアニメでは、主人公の女性の視覚を失った世界がよく描かれ、丁寧な取材に基づいて制作されたものなのだと感じた。どのテーマも短時間でパラスポーツの競技や選手のことがわかり、若い人にも興味を持ってもらえる内容だと思うので、ＰＲをぜひ続けてほしい。英語版も制作されているが、吹き替えの字幕が白字で出ており、柔道着の白さと重なって、見づらかったのが残念だった。

（ＮＨＫ側）
今後もアニメを作る予定なので、その際に字幕についても配慮するよう現場に伝える。

○　４月１３日(土)のブラタモリ「甲府盆地～ミラクル盆地は試練がいっぱい～」を見た。地元の人でも知らないような情報をいろいろな角度から掘り下げて伝えてくれた。さまざまな場所に行ってきちんと取材されていると感じた。文化と風土を結び付けて報道するのは大事なことだと思う。ただ、番組がリニアモーターカーの話題から入ったことについては疑問に思った。山梨県にもリニアモーターカーが通ると全国の方に知っていただくという点ではよかったが、リニアモーターカーが通ることに反対している住民もいると聞くので、導入としてはやや違和感があった。

○　４月１４日(日)の目撃！にっぽん「思い出料理人　よみがえる“あの日”」を見た。亡くなった母親の味など、依頼者の忘れられない思い出の味を再現する料理人を取り上げていた。徹底した聞き取りから始まり、どこの土地だからどの調味料を使っているのかや、作っていた人の性格まで取材しながら進めていくことに感動した。

○　３月２４日(日)のクラシック音楽館「魅惑のアンサンブル」を見た。モーツァルト

の「ディヴェルティメント　変ロ長調　Ｋ．１３７」、チャイコフスキーの「セレナード　ハ長調　作品４８」を始め、今年２月に８９歳で逝去された作曲家でジャズピアニストのアンドレ・プレヴィンさんの追悼企画もあり、楽しませていただいた。演奏されている曲目を調べたいと思って、テレビの番組情報ボタンを押してみたが、番組のタイトル、放送時間が表示されるのみで、その後も、ｄボタンを押しても結局わからなかった。実際に曲目を知るにはどうしたらいいのか。方法がないとすれば、曲目をぜひスーパーなどで出していただきたい。

（ＮＨＫ側）

クラシック音楽の番組の場合は曲目、演奏者等をお知らせすることを基本としている。この番組のデータ放送の詳細については確認して次回お答えする。

○　４月１３日(土)ＢＳ１スペシャル「カワイイが地方を救う！～東京ガールズコレクションの挑戦～」を見た。タイトルの「カワイイ」ということばが海外でも知られている中で、この番組は若者にもよく見られたのか伺いたい。著名なモデルたちが出ていたので、そこにクローズアップするのかと思っていたが、国連と東京ガールズコレクションが何を意図して、地域産業とコラボレーションをしているのかが明確になっており、町おこしを含めた新しいファッションショーのあり方を感じることが出来た。残念だったのは、モデルとデザイナーとのやりとりは見えたが、モデルと遠州織物職人のやりとりがあまり見られなかったことだ。そういった映像がもっとあれば、多くの人が関わって同じ方向を向いて、ショーを作っていったことがより伝わったのではないか。第２弾、第３弾に期待したい。

（ＮＨＫ側）

番組を見ていただいた方の中での割合を見ると、比較的若い世代によく見ていただいていたと認識している。

○　新聞の広告が目に入り、４月１日(月)からスタートした「三宅民夫のマイあさ！」をずっと聴いている。忙しいビジネスマンをターゲットにしているのだろうが、いろいろな話題をバランスよく取り上げていて、三宅さんの語り口、進行がとても際立っている。４月４日の放送では新元号について海外でどのように報じられているのか取り上げており興味深かった。また、新たな元号「令和」が発表されたが、ＮＨＫではどのようなアクセントで読んでいるのかお聞きしたい。

（ＮＨＫ側）

「令和」の発音については、ＮＨＫでは頭にアクセントを付ける発音と平板の発音を両方ともに使っている。新しいことばの発音についてはさまざまな部局で相談して放送でどのように発音するのかを決めている。放送では多くの方が自然に受け入れ、誤解がないようにコミュニケーションが取れる発音を使っている。ことばのアクセントについては、世の中でどのように使われているかをきちんと見極め、随時見直しもしていく。

○　「ＮＨＫジャーナル」を聴いた。４月４日(木)の「ミニ・ビブリオバトル」のコーナーのテーマは「平成」だったので、新元号発表直後ということもあり、関心を持っていた。音だけなので想像力がかきたてられるが、この日はアナウンサーの質問が淡泊すぎて、話が盛り上がらず残念だった。　４月９日(火)の「ジャーナル地域発」は埼玉の魅力をリポートする内容だった。現地局からのリポートについて、スタジオキャスターとのやりとりがあったほうが内容に変化がでて、話が膨らんだと思う。

○　ラジオのＡＭ放送について、広告収入が低迷する中、日本民間放送連盟が、費用がかさむＡＭ放送を廃止して、ＦＭ放送に転換出来るようにし、経営改善したいという要望を総務省に出したそうだが、ＮＨＫとして何か今後の取り組みなどはあるか。

（ＮＨＫ側）

ＡＭラジオ放送については、聴取者の皆さんの生命と財産を守るということからいろいろな情報の伝達の手段を持っておくべきだと考えている。また、キャスターがもっとやりとりすべきだという意見はそのとおりだと思う。ただ、番組全体の中でのバランスもあるので、いろいろ考慮しながら、聴取者により伝わりやすい伝え方をこれからも考えていきたい。

○　「人間ってナンだ？　超ＡＩ入門　シーズン２」はやや地味な番組かもしれないが、大変おもしろい。シーズン３、シーズン４と続けてほしい。

ＮＨＫ編成局
番組審議会事務局